

# 川越市文化財保護年報

平成 30 年度

川 越 市 教 育 委 員 会  
文 化 財 保 護 課

# 序

文化財は、私たちが歩んできた身近な歴史を明らかにする貴重な資料であるとともに、私たちの日常生活に密接に結びついた、かけがえのない財産でもあります。

川越市には、数多くの文化財があります。文化財保護法に定義された、有形文化財・民俗文化財・記念物・伝統的建造物群のほかに、埋蔵文化財も広く存在しています。

つまり、歴史上・芸術上・学術上において価値の高い文化財がその指定の有無にかかわらず存在しているといえます。これらの貴重な文化財を後世に引き継いでいくために、川越市教育委員会では文化財の保存と活用を推進し、各種の事業に取り組んでいます。

このたび刊行する「川越市文化財保護年報」では、平成30年度に、市の無形民俗文化財として指定をした「新宿雀ノ森のお焚き上げ」のほか、川越市教育委員会が文化財に関しておこなった事業について、写真や図を用いてわかりやすく紹介しています。

この年報をご活用いただき、文化財をより身近に感じていただければ幸いです。

令和元年 10月

川越市教育委員会教育総務部  
文化財保護課

# 目 次

1	文化財保護課の目標と決算	1
1-1	目標	1
1-2	平成30年度決算及び前年度比較	1
2	教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務	1
3	附属機関	2
3-1	文化財保護審議会	2
3-2	川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会	3
3-3	河越館跡整備検討委員会	4
3-4	山王塚古墳調査検討委員会	4
3-5	伝統的建造物群保存地区保存審議会	5
4	新指定文化財	6
4-1	市指定文化財	6
	(1) 新宿雀ノ森のお焚き上げ	6
5	河越館跡史跡整備事業	7
5-1	史跡の概要	7
5-2	保存整備の経過	8
5-3	史跡整備に係る主な事業経過	9
5-4	公有化の推移	9
5-5	河越館跡活用事業	9
	(1) 河越流鏝馬	9
	(2) 行為許可	10
6	川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業	11
6-1	川越氷川祭の山車行事	11
6-2	保存修理事業	12
	(1) 川越氷川祭の山車 喜多町秀郷の山車車軸等修理	12
	(2) 川越氷川祭の山車 松江町一丁目龍神の山車本体修理	12
	(3) 川越氷川祭の山車 志多町弁慶の山車人形上着修理	13
7	指定文化財の管理	14
7-1	指定文化財保存事業(補助事業)	14
7-2	文化財保存団体への助成と活動状況	15
7-3	主な保存事業	16
	(1) 三芳野神社社殿保存修理	16
	(2) 八坂神社社殿保存修理	18
	(3) 松平大和守家廟所保存整備	19
	(4) 並木のクス支障根対策工事業	20
	(5) 下小坂の大ケヤキ環境整備事業	21
8	文化財調査	22
8-1	古文書調査	22
8-2	『川越市の文化財』改訂に伴う調査	22

<b>9</b>	<b>文化財の活用</b> .....	<b>23</b>
9-1	資料の貸出.....	23
9-2	市指定文化財の活用状況.....	23
	(1) 時の鐘.....	23
	(2) 永島家住宅(旧武家屋敷).....	24
	(3) 川越城中ノ門堀跡.....	24
9-3	他部局所管の文化財施設の状況.....	25
	(1) 川越城本丸御殿〔博物館〕.....	25
	(2) 川越市蔵造り資料館〔博物館〕.....	25
	(3) 旧川越織物市場、旧栄養食配給所〔都市景観課〕.....	26
	(4) 川越市旧山崎家別邸、川越市旧山崎家庭園〔観光課〕.....	26
	(5) 川越市産業観光館〔産業振興課〕.....	27
9-4	文化財の公開.....	27
<b>10</b>	<b>埋蔵文化財</b> .....	<b>28</b>
10-1	埋蔵文化財調査一覧.....	28
10-2	試掘調査.....	31
10-3	教育委員会の発掘調査.....	47
	(1) 弁天南遺跡第15次調査.....	47
	(2) 川越城跡第35次調査.....	49
	(3) 川越城跡第36次調査.....	50
10-4	遺跡調査会の発掘調査.....	51
	(1) 登戸遺跡第2次調査.....	51
	(2) 南本町遺跡第2次調査.....	52
	(3) 川越城跡第37次調査.....	54
	(4) 小仙波2丁目A遺跡第3次調査.....	58
	(5) 五畑東遺跡第4次調査.....	59
<b>11</b>	<b>伝統的建造物群保存地区保存整備事業</b> .....	<b>61</b>
11-1	伝統的建造物群保存地区制度.....	61
11-2	地区概要.....	61
11-3	地区の特性.....	62
11-4	平成30年度の主な事業の概要.....	62
11-5	現状変更行為件数.....	62
11-6	保存事業.....	63
11-7	保存活動事業.....	65
11-8	伝統的建造物の特定状況.....	65
11-9	蔵造り資料館耐震化事業.....	66
<b>12</b>	<b>普及・啓発事業</b> .....	<b>67</b>
12-1	職員の派遣.....	67
12-2	刊行物.....	68
12-3	防火訓練.....	69
12-4	遺跡発表会2018.....	70
12-5	山王塚古墳発掘調査見学会.....	71
<b>13</b>	<b>川越市の文化財数</b> .....	<b>72</b>



# 1 文化財保護課の目標と決算

## 1-1 目標

川越市は、埼玉県を代表する文化財のまちである。これは、各地域の人々が伝承されてきた歴史的建造物や伝統芸能などを大切に守り、伝えてきた結果であり、今後もこれらの貴重な文化財を将来の世代に引き継いでいかなければならない。

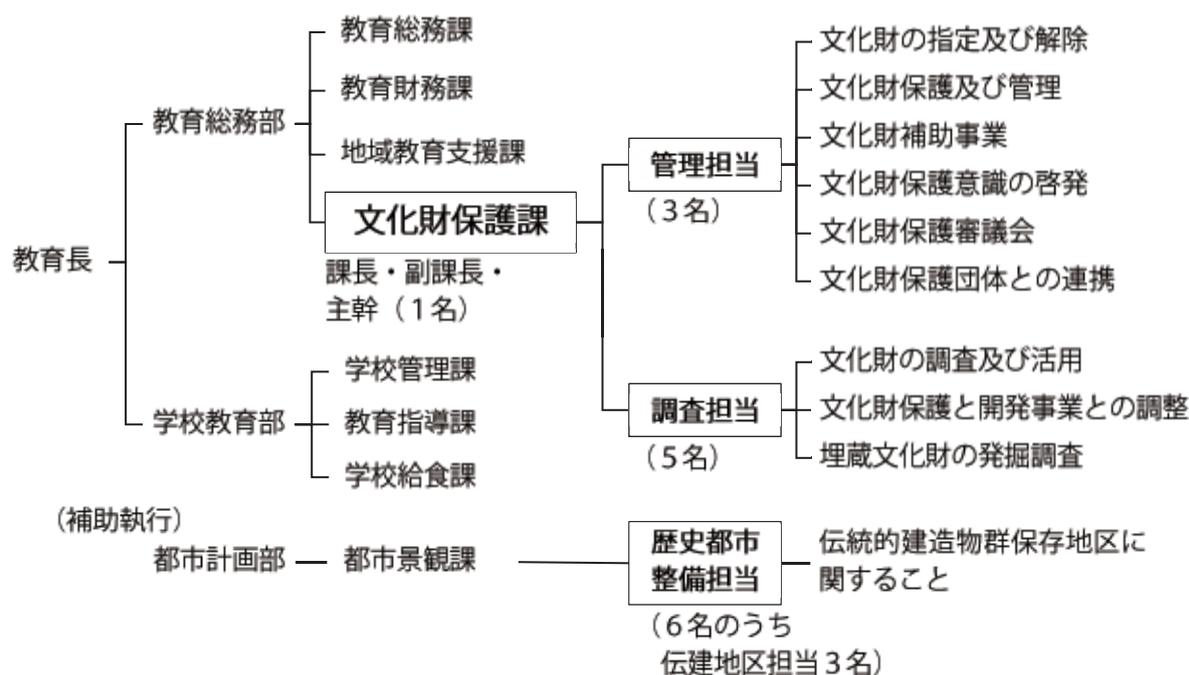
このため、つぎのような目標のもとで、文化財の保存と活用を推進していく。

- 文化財の諸調査を実施し、理解を深めるとともに、その保存と活用を図る。
- 指定文化財の維持、管理の充実とその活用を図る。
- 河越館跡整備及び活用の推進を図る。
- 文化財保護意識の啓発に努める。
- 文化財保護団体等との連携を図り、保護活動の推進に努める。

## 1-2 平成 30 年度決算及び前年度比較

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	比較増減額	増減率	
一般会計	109,767,508,703	109,682,095,068	△ 85,413,635	△ 0.08%	
教育費	16,383,957,469	13,734,929,615	△ 2,649,027,854	△ 16.1%	
文化財保護費	104,562,186	114,315,966	9,753,780	9.3%	
事業別	文化財の維持・管理	61,697,733	76,928,651	15,230,918	24.7%
	文化財の活用	29,887,832	18,887,128	△ 11,000,704	△ 36.8%
	河越館跡整備	12,976,621	18,500,187	5,523,566	42.6%

## 2 教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務



### 3 附属機関

#### 3-1 文化財保護審議会

川越市文化財保護審議会は、川越市文化財保護条例第4条に基づき設置されており、平成30年度は11名の委員を委嘱している。委員の役割分担は、考古・歴史・民俗・建築・植物・文学などにわかれ、指定文化財に関する調査と、指定文化財の維持・管理についての助言等を行う。

委員名簿（任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	山野 清二郎	委員	羽生 修二
副会長	松尾 鉄城	〃	馬場 弘
委員	大久根 茂	〃	林 宏一
〃	小久保 徹	〃	牧野 彰吾
〃	酒井 紀美	〃	水上 嘉代子
〃	佐藤 啓子		

#### 開催状況

第1回	期日	平成30年5月11日（金）
	場所	博物館 会議室
	出席者	10名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 初雁公園基本計画について</li><li>・ 河越館跡について</li><li>・ 山王塚古墳調査について</li><li>・ 新指定文化財候補について</li><li>・ 薬師神社（幸町）の整備について</li><li>・ 「川越市の文化財」の改訂について 等</li></ul>
第2回	期日	平成30年8月17日（金）
	場所	博物館 会議室
	出席者	10名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 蔵造り資料館耐震化工事について</li><li>・ 川越氷川祭神幸祭の日程・供奉等について</li><li>・ 文化財修理（松平大和守廟所・三芳野神社）について</li><li>・ 文化財調査について 等</li></ul>
第3回	期日	平成30年11月22日（木）
	場所	小田城跡（つくば市）、真壁伝統的建造物群保存地区（桜川市）等
	出席者	6名
	主な議題	文化財保護行政視察
第4回 （臨時）	期日	平成31年1月18日（金）
	場所	博物館 会議室
	出席者	10名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 初雁公園基本計画（案）について</li><li>・ 蔵造り資料館耐震化工事について</li></ul>

第5回	期日	平成31年2月22日(金)
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護法改正に伴う文化財保存活用地域計画について</li> <li>山王塚シンポジウムの開催について</li> <li>新指定文化財について</li> <li>「川越市の文化財」の改訂事業について 等</li> </ul>

### 3-2 川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会

川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会は、川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会条例に基づき、川越氷川祭の山車行事に係る山車等の修理等に関して検討を行うため設置されている。平成30年度は、委員として民俗、建築、人形、繊維・染織を専門とする学識経験者と保護団体代表の5名を委嘱している。

委員名簿（任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	大久根 茂	委員	水上 嘉代子
副委員長	藤澤 彰	〃	笠原 啓一
委員	是澤 博昭		

開催状況

第1回	期日	平成30年5月30日(水)
	場所	教育委員会室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度修理事業進捗報告(松江町一丁目〈龍神〉山車本体ほか)</li> <li>平成31年度以降の修理事業予定について(松江町一丁目〈龍神〉山車本体)</li> <li>今後の山車修理事業に係る調査報告</li> <li>平成31年度祭屋台等製作修理技術者研修会について</li> </ul>
第2回	期日	平成30年11月20日(火)
	場所	美術館 会議室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度修理事業進捗及び完了報告(松江町一丁目〈龍神〉山車本体ほか)</li> <li>平成31年度以降の修理事業予定について(松江町一丁目〈龍神〉山車本体)</li> <li>新規に寄せられた破損・不具合報告</li> <li>平成31年度祭屋台等製作修理技術者研修会について 等</li> </ul>



### 3-3 河越館跡整備検討委員会

河越館跡整備検討委員会は、川越市河越館跡整備検討委員会条例に基づき河越館跡の整備に関して検討を行うため設置されている。平成30年度は中世史、考古学、造園学、景観工学等を専門とする10名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 平成30年11月1日～令和2年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	内田 祥士	委員	小久保 徹
副委員長	梅沢 太久夫	〃	浅野 晴樹
委員	小野 正敏	〃	落合 義明
〃	鈴木 誠	〃	齋藤 慎一
〃	田代 脩	〃	橋口 定志

開催状況

第1回	期日	平成30年12月26日(水)
	場所	ウェスタ川越 南公民館 講座室4号
	出席者	7名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備方針の検討について</li> <li>発掘調査について</li> <li>VRの導入とガイダンス施設について</li> </ul>

### 3-4 山王塚古墳調査検討委員会

川越市山王塚古墳調査検討委員会は、川越市山王塚古墳調査検討委員会条例に基づき、山王塚古墳の調査及び研究に関して考古学・古代史などを専門とする学識経験者により検討するため設置された。平成30年度は考古学、古代史を専門とする5名の委員によって検討を行った。

委員名簿（任期 平成30年11月1日～令和2年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	広瀬 和雄	委員	宮瀧 交二
副委員長	須田 勉	〃	小久保 徹
委員	池上 悟		

開催状況

第1回	期日	平成30年10月16日(火)
	場所	美術館 会議室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括報告書の作成について</li> <li>今後の計画について</li> </ul>

### 3-5 伝統的建造物群保存地区保存審議会

川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会は、川越市伝統的建造物群保存地区保存条例第10条に基づき設置されており、市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区の保存等に関する重要事項について調査及び審議をし、並びにこれらの事項について市長及び教育委員会に建議することを目的としている。平成30年度は12名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 平成30年8月30日～令和2年8月29日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	福川 裕一	委員	末木 啓介
副会長	隈倉 雄二郎	〃	須賀 憲
委員	溝尾 良隆	〃	石村 晃龍
〃	田口 陽子	〃	平野 馨
〃	佐藤 由美子	〃	原 知之
〃	勝村 直久	〃	竹澤 穰治

#### 開催状況

第1回	期日	平成30年11月5日（月）
	場所	第5委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 会長・副会長の選任について</li><li>・ 伝建地区保存整備事務について</li><li>・ 平成29年度国庫補助事業について</li><li>・ 平成30年度国庫補助事業について</li></ul>

## 4 新指定文化財

### 4-1 市指定文化財

#### (1) <sup>あらじゆくすずめのもり</sup>新宿雀ノ森<sup>たあ</sup>のお焚き上げ

名称・員数	新宿雀ノ森のお焚き上げ
種別	無形民俗文化財
所在地	新宿町1-22-5 雀ノ森氷川神社
所有者	雀ノ森氷川神社氏子会
指定年月日	平成31年3月25日

「お焚き上げ」は、9月1日の夜に雀ノ森浅間神社で行われる火祭りである。浅間神社は旧新宿村の鎮守である雀ノ森氷川神社の境内社であり、「雀ノ森」は「鎮めの森」の意ではないかと言われている。現在新宿町一丁目から六丁目までの6町会で祭りを運営している。

この「お焚き上げ」は富士講による行事であり、毎年8月末に北口本宮で行われる「吉田の火祭り」を模して、明治18年(1885)に始めたものという。

当日は朝から関係者が集まり、祭りの準備を進める。境内中央には薪を人の背丈ほどの高さに積み上げ、周囲に注連縄を張って斎場とする。斎場のわきには、テントを設営して内部に祭壇を設け、仮宮とする。テントを設営するようになったのは平成29年からで、それ以前は葦簀で囲った仮宮であった。

準備は午前中に終わり、午後3時から仮宮で祭典が行われる。各町会の総代と富士講の行者が出席し、神官が祝詞を奏上して20分ほどで終了。そのあと社務所での直会となる。夕方6時ごろから新宿囃子連、仙波囃子連による祭り囃子の上演や民踊が行われ、多くの露天商も出てにぎわいを見せる。

夜8時、大勢の参詣者が見守るなかで「お焚き上げ」が始まる。15人の白装束の行者が手水で身を清めたのち、境内にある富士塚に登って「身禊祓<sup>みそぎはらえ</sup>」という祝詞を読み上げ、さらに仮宮に移動して「富士山御伝<sup>おつたえ</sup>」を読み上げる。このあと行者は斎場に入り、積み上げた薪に点火されると、燃え上がる炎のなかに祈願内容を書いた紙を、長さ60cmほどの篠竹の箸で挟んで次々に投入する。その際、「お願い奉る、〇〇〇〇(祈願内容)、新宿町〇丁目、〇〇〇〇(氏名)」と読み上げる。祈願内容はあらかじめ町内への回覧で申込みを募ったもので、家内安全、病氣平癒、商売繁盛などさまざまである。

クライマックスは40分ほどで終わり、火が消される。翌日、役員は祈願の申込みをした家々を回り、お札を届けて祭りは終了する。



## 5 河越館跡史跡整備事業

### 5-1 史跡の概要

1. 種 別 史跡
2. 名 称 河越館跡
3. 所 在 地 大字上戸 192 - 1 他
4. 指 定 等 種 別 昭和 59 年 12 月 6 日史跡指定  
・ 年 月 日 文部省告示第 142 号
5. 指 定 理 由
  - (1) 指定基準 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準史跡 2 (城跡) による。
  - (2) 説明 河越館跡は川越市の北西部、入間川西岸に位置し、その規模は現存土塁の外周に検出された堀跡を含めて約 5 万平方メートルである。  
河越館跡は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて有力な関東武士であった河越氏の城館の遺跡であり、中世武家政権を支えた在地領主の実態を究明する上においてもきわめて重要な遺跡である。
6. 指 定 地 域 川越市大字上戸 192 - 1 他

#### 7. 指定地の面積

市有地	常楽寺土地	その他民有地	合計
37,399㎡	8,491.18㎡	2,619㎡	48,509.18㎡

8. 管理団体又は所有者
  - (1) 名称 川越市
  - (2) 指定年月日 平成元年 7 月 31 日
9. 河越氏と河越館跡

河越氏は、桓武平氏・秩父氏の流れを汲み、平安末期から南北朝期にかけて繁栄し、武蔵国でも有数の勢力を誇った武士である。特に河越重頼は娘が源義経の正妻になったことで知られる。後に、重頼とその子重房は義経の縁者として誅される悲劇もあったが、その曾孫経重は高野山に町石を寄進し、新日吉山王宮に銅鐘を寄進するなどの事蹟を残し、以後、鎌倉幕府の有力御家人として活躍している。

南北朝の動乱後も、鎌倉府の下で勢力を保っていた河越氏であるが、応永元年(1368)に平一揆の中心となり、河越館に立て籠もって鎌倉府に反旗を翻した。しかし敗北し、以後歴史の表舞台から姿を消す。この河越館跡はその河越氏に関係するもので興亡の歴史を秘めた史跡である。

## 5-2 保存整備の経過

昭和7年	3月	河越館跡県指定史跡となる
昭和46年	3月～4月	範囲確認調査(第1次)
〃	7月～8月	範囲確認調査(第2次)
昭和47年	7月～8月	範囲確認調査(第3次)
昭和48年	7月	範囲確認調査(第4次)
〃	11月～12月	範囲確認調査(第5次)
〃	12月～49年2月	範囲確認調査(第6次)
昭和50年	5月～7月	範囲確認調査(第7次)
昭和51年	4月～7月	範囲確認調査(第8次)
昭和52年	5月～9月	範囲確認調査(第9次)
昭和59年	12月	河越館跡国指定史跡となる
昭和61年	3月	史跡河越館跡保存管理計画策定
昭和62年	3月	史跡河越館跡整備計画基礎調査報告書作成
平成元年	7月	川越市、史跡河越館跡の管理団体として指定を受ける
平成5年	1月～3月	常楽寺離れ建替の現状変更に伴う確認調査
平成7年	4月～8月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第1次)
平成9年	11月～10年2月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第2次)
平成10年	2月～10月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第3次)
平成11年	11月～12年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第4次)
平成13年	2月～3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第5次)
〃	3月	史跡河越館跡整備基本計画策定
〃	11月～14年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第6次)
平成14年	2月	常楽寺本堂建替の現状変更に伴う確認調査
〃	11月～15年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第7次)
平成15年	10月～16年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第8次)
平成16年	10月～17年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第9次)
平成17年	3月	国史跡河越館跡整備資料報告書作成
〃	10月～18年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第10次)
平成18年	3月	河越館跡史跡整備基本設計書策定
平成18年	11月～19年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第11次)
平成19年	12月	河越館跡(第1期)史跡整備実施設計書策定
平成19年	11月～20年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第12次)
平成20年	2月～3月	平成19年度分(第1期)史跡整備工事
平成20年	9月～21年3月	平成20年度分(第1期)史跡整備工事
平成20年	11月～21年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第13次)
平成21年	9月～10月	平成21年度分(1期)史跡整備工事
平成21年	11月～22年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第14次)
平成21年	11月	河越館跡史跡公園開園(13,266.00㎡)
平成22年	10月～23年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第15次)
平成23年	12月～24年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第16次)
平成28年	10月～29年1月	河越館跡用地測量業務委託
平成30年	7月～9月	河越館跡物件調査業務委託
平成31年	1月～3月	河越館跡物件調査業務委託(追加分)

### 5-3 史跡整備に係る主な事業経過

平成30年度は、用地取得の事前準備として物件調査を行った。

### 5-4 公有化の推移

年度	取得面積 (㎡)	取得面積 合計 (㎡)	公有化率	年度	取得面積 (㎡)	取得面積 合計 (㎡)	公有化率
昭和45年度	5,865	5,865	12%	平成8年度	1,393	20,406	42%
昭和46年度	6,741	12,606	26%	平成9年度	1,763	22,169	45%
昭和47年度	809	13,415	27%	平成10年度	10,286	32,455	67%
平成元年度	253	13,668	28%	平成11年度	1,638	34,093	70%
平成2年度	487	14,155	29%	平成12年度	181	34,274	70%
平成3年度	512	14,667	30%	平成13年度	1,999	36,273	74%
平成4年度	796	15,463	32%	平成14年度	295	36,568	75%
平成5年度	1,196	16,659	34%	平成15年度	204	36,772	76%
平成6年度	1,079	17,738	36%	平成16年度	395	37,167	77%
平成7年度	1,275	19,013	39%	平成17年度	232	37,399	77%

※公有化率は、公有化開始以降の推移がわかるように国指定地面積（48,509.18㎡）に対する公有地面積で示す。なお、公有地化予定面積（常楽寺を除く）の公有化率は93%である。

### 5-5 河越館跡活用事業

#### (1) 河越流鏝馬

1. 開催日：平成30年11月17日（土）
2. 会場：国指定史跡河越館跡
3. 主催：河越流鏝馬実行委員会・川越市教育委員会
4. 協力：上戸小校区8自治会・上戸自治会・鯨井自治会・上戸芸能保存会・鯨井の万作保存会・(公社)小江戸川越観光協会・川越市文化財保護協会
5. 演武者：倭式騎馬會
6. 見学者数：約3,400人
7. 概要

市内上戸にある国指定史跡河越館跡の活用事業として「河越流鏝馬実行委員会」との共催のもと、河越流鏝馬を実施した。会場となった整備予定地には、南東から北西方向に約190mの直線コースの馬場を設置。南東を馬場本、北西を馬場末とし、南東から北西に向かって馬を走らせた。

行事の流れとしては、地元保存会による芸能実演後、常楽寺境内で出陣式を行った。その後、流鏝馬会場に移動し、天地人三才之儀、扇舞之儀が行われたのち、5人の狩装束を身にまとった射手が馬を馳せて流鏝馬を行った。

なお、流鏝馬行事は正式の三的で行い、日本の在来馬を用いた。



地元保存会による芸能実演



出陣式 常楽寺にて



馬上武芸 馬上長槍



流鏝馬

## (2) 行為許可

河越館跡史跡公園の利用にあたり、行為許可の対象となったものは下記のとおりである。

	行為日	行為目的
1	3月24日	グラウンドゴルフ大会

## 6 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業

### 6-1 川越氷川祭の山車行事

#### (1) 概要

川越氷川祭の山車行事は、川越氷川神社の例大祭である川越氷川祭に付随して行われる行事である。川越氷川祭は、江戸時代初期に川越藩主松平伊豆守信綱が、川越氷川神社に祭礼用具を寄進し祭礼の執行を奨励したことがはじまりとされている。

川越氷川神社の氏子のうち旧十ヶ町と呼ばれる各町では、山車などの練り物を出して神輿の神幸に供奉してきた。また、自町内や他の町にも山車を曳き、他町の山車と出あう際には、山車を向けて囃子をたたきあう「曳っかわせ」が行われるなど、祭事に伴う多彩な民俗も受け継いできた。現在では行事の規模、範囲が拡大し、市民まつりとしての側面も担っている。

現在ある山車の形状は、上下可動式の二重鉾で上に人形をいただく江戸型山車であり、天下祭の影響を強く受けている。また、囃子台を自在に向けられるように、せいご台より上が水平に回転する仕組みを持つ山車も多い。

10台の山車が昭和43年に「川越氷川祭山車」として県の有形民俗文化財に指定され、平成17年には行事自体が「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された。そして平成28年には「川越氷川祭の山車行事」を含む全国33件の祭礼行事が一括で「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

行事を継続していくためには様々な問題を抱えているが、中でも近年は道路の舗装化や行事の毎年開催化の影響により、山車の劣化損傷が避けられない状況にある。人形や装飾品についても経年劣化や急な悪天候を原因とした汚損などが起こっている。

このことから、国指定に係る13町が保有する14台の山車と、県指定に係る1町1台の山車について、損傷状況を調査した上で、順次保存修理事業を行っている。

#### (2) 行事開催日

平成30年度は、10月20日午後の氷川神社神幸祭が執行された。神輿行列の出御に合わせて氏子町の山車7台が供奉及び見送りを行った。



平成30年度の山車行事の様子



## 6-2 保存修理事業

### (1) 川越氷川祭の山車 喜多町秀郷の山車車軸等修理

事業名称 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業  
対象文化財 重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事  
県指定有形民俗文化財 川越氷川祭山車 付 絵馬一面 絵巻一卷  
事業期間 平成30年4月1日～31年3月31日

#### 山車の概要

喜多町の山車は小倉作兵衛父子の請負（大工山崎幸吉、彫工中嶋直吉）により明治30年に製作された四つ車・二重鉾・唐破風屋根の囃子台・廻り舞台を持つ江戸型山車であり、山車人形は秀郷（俵藤太秀郷）である。

#### 破損状況と修理内容

当山車の車軸は過去の祭礼において破損しており、その際に応急処置として周囲を鉄板で取り囲んだという。長年この状態のまま使用してきたが、車軸全体を鉄板に包み柔軟性が損なわれたことにより、轆や土台などの隣接部材に余分な負荷がかかり割れを引き起こしていた。このことから修理委員会での審議を仰ぎ、平成30年度事業として車軸の新調及び周辺部材の修理を行った。施工は高山・祭屋台保存技術協同組合が行った。



車軸（新調後）



轆（修理後）他の仮組立

### (2) 川越氷川祭の山車 松江町一丁目龍神の山車本体修理

事業名称 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業  
対象文化財 重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事  
市指定有形民俗文化財 川越祭り山車 龍神の山車  
事業期間 平成30年4月1日～31年3月31日

#### 山車の概要

松江町一丁目の山車は、昭和26年に清水登喜三が製作した屋台を基に、数野友次郎らが昭和63年に山車に改造したもので四つ車・二重鉾・唐破風屋根の囃子台・廻り舞台を持つ。山車人形は昭和63年に川崎阿具が製作した龍神である。

#### 破損状況と修理内容

当山車は回転台の中心軸が傾斜して片側方向に落ち、転動体（コロ）の摩耗、軌道輪等のゆが

みが見られた。また、車輪等にも割れが見られた。これらは当山車の構造的な問題から起こる不具合であると判明したため、この問題を解消するための全体的な改修を行うこととなった。

改修は4箇年計画として、そのうち2箇年を設計期間（基本設計・実施設計）として残りの2年に実施設計を踏まえた内容の工事を行う予定である。初年度である平成30年度は基本設計を行った。基本設計業務はNPO法人川越蔵の会に委託した。



現況調査



部材実測

(写真提供 NPO 法人川越蔵の会)

### (3) 川越氷川祭の山車 志多町弁慶の山車人形上着修理

事業名称	文化財保存事業
対象文化財	重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事 県指定有形民俗文化財 川越氷川祭山車 付 絵馬一面 絵巻一卷
事業期間	平成30年6月15日～8月31日

#### 山車の概要

志多町の山車は、四つ車・二重鉾・欄間仕立ての囃子台を持つ江戸型山車であり、江戸末期に製作されたと伝承される。山車人形は弁慶であり、人形の箱書には安政3年(1856)の「鼠屋豊前」の銘が残されている。

#### 破損状況と修理内容

当山車の人形衣装のうち上着が、山車曳行時の衝撃により傷みを生じていた。特に人形が背負っている笥の肩紐が当たる部分を中心に著しく摩耗していた。また、生地自体も全体的に退色と劣化が進んでいる状態であった。このことから、特に破損している表地を全面的に新調し、比較的劣化が進んでいない裏地は現状のものを残すという修理を行った。施工は株式会社仙龍が行った。



上着正面（修理後）



上着背面（修理後）

(写真提供 株式会社仙龍)

## 7 指定文化財の管理

### 7-1 指定文化財保存事業（補助事業）

平成30年度に補助金を交付した保存事業は以下のとおりである。

#### (1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検（川越市補助金総交付額 379,000円）

重要文化財	喜多院客殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	東照宮本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	日枝神社本殿	防災設備保守点検	経常
〃	大沢家住宅	防災設備保守点検	経常
県指定文化財	三芳野神社社殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	氷川神社本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	古尾谷八幡神社社殿	防災設備保守点検	経常
市指定文化財	原家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	小島家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	田中家住宅	防災設備保守点検	経常

#### (2) 史跡・天然記念物の保存（川越市補助金総交付額 1,065,000円）

市指定文化財	愛宕神社古墳	環境整備	経常
〃	上戸日枝神社境内	環境整備	経常
〃	原田家住宅	環境整備	経常
〃	鯨井のヒイラギ	環境整備	経常
〃	牛塚	環境整備	臨時
〃	下小坂の大ケヤキ	環境整備	臨時
〃	浅間神社古墳	環境整備	臨時
〃	古市場のヒイラギ	環境整備	臨時
〃	山王塚	環境整備	臨時

#### (3) 有形文化財の修理（川越市補助金総交付額 62,226,000円）

重要文化財	大沢家住宅腰壁	保存修理	臨時
〃	東照宮隨身門扉	保存修理	臨時
〃	喜多院保管指定文化財	燻蒸・殺虫	経常
県指定文化財	三芳野神社社殿 ※	保存修理	臨時
〃	八坂神社社殿 ※	保存修理	臨時
市指定文化財	松平家大和守家廟所 ※	保存修理	臨時
〃	斉藤家住宅蔵	保存修理	臨時
〃	砂新田春日神社屋根	保存修理	臨時
〃	宮澤家住宅	保存修理	臨時

※ 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）の対象事業

(4) 有形民俗文化財の修理 (川越市補助金総交付額 1,941,000 円)

重要文化財	川越氷川祭の山車行事	山車の保存修理 (喜多町)	臨時
〃	川越氷川祭の山車行事	山車の保存修理 (松江町一丁目)	臨時
〃	川越氷川祭の山車行事	山車の保存修理 (志多町)	臨時
市指定文化財	鯨井の万作	半纏・帯新調	臨時
〃	五百羅漢	保存修理	臨時

## 7-2 文化財保存団体への助成と活動状況

(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業 (川越市補助金総交付額 1,240,000 円)

埼玉県・川越市指定無形民俗文化財 17 件について後継者育成・保存事業を実施、各団体に補助金を交付した。補助の対象となった文化財は次のとおりである。

県指定文化財	川越祭りばやし (中台)
〃	川越祭りばやし (今福)
〃	老袋の万作
〃	石原の獅子舞
〃	ほろ祭
〃	老袋の弓取式
市指定文化財	南田島の足踊り
〃	鯨井の万作
〃	中福の神楽
〃	筒がゆの神事
〃	芳地戸のふせぎ
〃	まんぐり
〃	福田の獅子舞
〃	上寺山の獅子舞
〃	川越の木遣り
〃	下小坂の獅子舞
〃	石田の獅子舞

(2) 文化財関係団体への助成 (川越市補助金総交付額 400,000 円)

文化財の保護・普及を目的に活動している文化財保護団体に対し、団体育成のため川越市補助金を交付した。

川越氷川祭の山車行事保存会  
川越市文化財保護協会

## 7-3 主な保存事業

### (1) 三芳野神社社殿保存修理

事業名称 三芳野神社社殿保存修理事業

対象文化財 県指定有形文化財（建造物）三芳野神社社殿 付明暦2年銘棟札一枚 1棟

所在地 郭町2-25-11

事業期間 平成30年4月1日～31年3月31日

#### 概要

三芳野神社社殿は、本殿と拝殿を幣殿でつないだ権現造りである。寛永元年（1624）に幕命により酒井忠勝（後の川越城主）が造営、その後、明暦2年（1656）に時の川越城主・松平信綱により改修が行われた。さらに、弘化4年（1847）にこけら葺きから瓦葺きへ、大正11年には銅板葺きに改められた。

平成元年から3年度にかけての半解体修理では、主に木部修理と屋根の葺き替えが行われたが、漆・彩色の修理は次期修理として実施されなかった。

このような状況から平成27年度より平成30年度まで4か年の予定で、損朽の著しい社殿全体の漆・彩色の塗り直しを主とする保存修理工事を行うこととなった。

平成30年度は事業の最終年であり、昨年度に引き続き、主に社殿外部の塗工事と社殿周囲の石工事を実施した。

#### 平成30年度の工事内容（主に社殿外部の漆塗り・彩色塗り直し、社殿周囲の石工事）

##### 〔弁柄漆塗り〕

本殿 外部 長押から下の範囲：下地付け～中・上塗 ※高欄・縁下は搔落とし～上塗

幣殿 外部 長押から下の範囲：下地付け～中・上塗 ※縁下は搔落とし～上塗

拝殿 外部 長押から下の範囲：下地付け～中・上塗 ※高欄・縁下・木階は搔落とし～上塗  
透き堀：搔き落とし～上塗 ※一部彩色（緑青）

建具 拝殿部戸：中・上塗 拝殿唐戸：上塗 ※一部彩色（緑青）

〔漆黒塗り〕 幣・拝殿 内部 床：下地付け～中・上塗 幣・拝殿仕切格子：上塗

〔彩色〕 拝殿向拝手挟彫刻・木鼻（獅子）、墓股：仕上塗

〔飾金具取付〕 建具、高欄、格子天井（幣・拝殿内部）

〔取付〕 建具

〔石工事（据え直し・石材補修）〕 敷石（拝殿前）、雨落ち（社殿周囲）

〔木部補修〕 末社（蛭子社・大黒社）柵



仮囲い設営状況（南から）



足場解体作業（西から）



拝殿縁廻り 塗膜掻き落とし後（南西から）



拝殿縁廻り 漆中塗り作業（南から）



拝殿前敷石 据え直し工事（西から）



礎股 彩色塗り直し



拝殿前敷石 据え直し工事後（北西から）



拝殿向拝手挟み 彩色塗り直し後（北西から）



修理後全景（南から）



修理後全景（南西から）

## (2) 八坂神社社殿保存修理

事業名称 八坂神社社殿保存修理事業  
対象文化財 県指定有形文化財（建造物）八坂神社社殿 1棟  
所在地 宮下町2-11-3  
事業期間 平成30年4月2日～31年3月31日

### 概要

八坂神社社殿は、寛永14年（1637）に江戸城二の丸東照宮として建立されたもので、明暦2年（1656）に川越城内三芳野神社の外宮として移築され、その後明治5年（1872）に冰川神社境内に再度移築され現在に至る。

昭和32年から33年に解体修理が行われてから、約60年を経えており、近年では経年劣化による漆塗や彩色の損朽が著しく、社殿縁廻りの漆塗りは、塗装が剥げ、木部が一部露出する状況であった。また、平成27年3月には懸魚の落下、平成30年5月には縁廻りに白蟻被害が発生した。

このような状況から、特に損朽が著しく緊急性を要す縁廻りの漆塗り修理と白蟻被害部分の木部修理及び白蟻防除処理を実施した。

### 平成30年度の工事内容

縁廻りの漆塗り修理  
白蟻被害部分の木部修理及び白蟻防除処理



社殿正面縁板 修理前（南東から）



社殿西側面縁板 塗膜搔落とし（南西から）



修理後（南東から）



修理後（南から）

（修理後写真提供 ㈱文化財工学研究所）

### (3) 松平大和守家廟所保存整備

事業名称	松平大和守家廟所保存整備事業
対象文化財	市指定有形文化財（史跡）松平大和守家廟所
所在地	小仙波町1-20-8（喜多院内）
事業期間	平成30年4月17日～31年3月31日

#### 概要

松平大和守家廟所は、江戸後期から幕末期に川越城主であった松平大和守家歴代当主の墓所である。喜多院・慈恵堂の裏手に位置し、東から霊鷲院（5代朝矩）・俊徳院（6代直恒）・馨徳院（7代直温）・興国院（8代斉典）、南側に1基独立して建中院（10代直侯）という配置である。

近年、経年劣化や震災等の影響により石塔類の傾きや基壇の不陸が著しく、史跡の保存整備が必要となり、平成26年度から5か年の予定で保存整備を実施中である。平成30年度は、保存整備の最終年であり、門の修理工事、周辺の整備工事、廟前石燈籠の修理工事を主に実施した。

#### 平成30年度の工事内容

門の修理工事：切妻造り本瓦葺き棟門の解体修理

周辺の整備工事：周囲塀の修繕、参道敷石等整備、植栽工事、解説板の製作等

廟前・家臣奉献石燈籠の整備工事

：再配置、基礎整備、部材復原製作（主に火袋）、石材強化の保存処理等



保存整備後全景（東から）



家臣奉献石燈籠修理後（南東から）



門修理後（南から）



周囲塀修繕後（南から）



#### (4) 並木の大きなクス支障根対策工事業

事業名称 並木の大きなクス支障根対策工  
対象文化財 県指定記念物（天然記念物） 並木の大きなクス  
所在地 並木 277  
事業期間 平成 31 年 3 月 8 日～ 31 日

#### 概 要

並木の大きなクス公園に隣接する民地敷地内の下水道の配管に、大きなクスの根が侵入し詰まらせたことが判明したため、埼玉県文化財保存事業費補助金を活用し、支障根切除及び防根忌避シート埋設の支障根対策工を実施した。



支障根系露出の様子



防根忌避シート取り付け作業後

## (5) 下小坂の大ケヤキ環境整備事業

事業名称	下小坂の大ケヤキ危険枝撤去作業事業
対象文化財	市指定記念物（天然記念物） 下小坂の大ケヤキ
所在地	下小坂 1003
事業期間	平成 31 年 3 月 27 日～ 28 日

### 概 要

平成 30 年 10 月 1 日未明の台風 24 号の暴風影響により赤櫟（右側）の枝が折れ、途中枝に引っかかった被害のある枝の撤去作業を「環境整備事業」として同月に実施した。が、その結果樹形バランスが崩れ、また、新たな腐朽箇所も見付き倒木の危険性が高まった。

そこで今回腐朽箇所にかかる負担軽減と安全確保のため、赤櫟（右側）と青櫟（左側）の大枝の剪定を実施した。



大枝剪定前



大枝剪定作業後

## 8 文化財調査

### 8-1 古文書調査

川越の歴史を理解するための基本史料の充実を図り、また、市指定文化財の現状や保管状況を確認するため、平成 28 年度から、市内に残る古文書の悉皆調査を行い、仮目録を作成する事業を開始した。整理は、古文書 1 点ずつの表題をとり、中性紙の文書袋に入れる作業である。

平成 30 年度は、中世文書 2 件と近世文書 2 件の合計 4 件の調査と整理作業を行った。中世文書は、市指定文化財の谷中大野家と大袋大河原家の文書調査を行い、現状や保管状況の確認作業などを行った。近世文書は、市指定文化財である村方文書の下小坂平野家（約 2,000 点）と上寺山成田家（約 1,200 点）の文書整理作業を行った。近世文書は令和元年度も継続して整理作業を行い、整理を終えた後に仮目録を作成する予定である。

### 8-2 『川越市の文化財』改訂に伴う調査

川越市では、冊子「川越市の文化財」の初版を昭和 47 年に刊行して以来、新指定文化財の追加や指定の変更により改訂を重ねてきたが、最後に改訂したのが平成 14 年ということで、令和 4 年の市制施行 100 周年での改訂に向けて作業を開始した。

作業は、川越市文化財保護審議員が専門分野の文化財を調査・写真撮影・執筆をしていく。今年度は調査（45 点）、写真撮影（53 点）、執筆（6 点）を実施した。

## 9 文化財の活用

### 9-1 資料の貸出

#### (1) 常設展等に貸与した資料（5件）

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	4月1日～ 3月31日	入間市博物館	常設展『入間の歴史』に展示	小仙波四丁目遺跡出土遺物5点
2	4月1日～ 3月31日	学校法人ひまわり学園	新園舎内展示ケースに展示	寿町東遺跡出土遺物10点
3	4月1日～ 8月31日	埼玉県立歴史と民俗の博物館	常設展『埼玉における人々のくらしと文化』に展示	河越館跡出土遺物9点
4	4月1日～ 3月31日	博物館	常設展『原始・古代コーナー』他に展示	河越館跡出土遺物他計50点
5	4月1日～ 10月5日	博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	弁天西遺跡出土遺物1点

#### (2) 特別展・企画展等に貸与した資料（3件）

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	12月11日～ 3月29日	埼玉県立歴史と民俗の博物館	企画展『埼玉の官衙一律令時代のお役所』に展示	花見堂遺跡出土遺物他10点
2	1月9日～ 3月31日	横浜市歴史博物館	企画展『横浜の野を駆ける—古代東国の馬と牧—』に展示	八幡前・若宮遺跡出土遺物他16点
3	12月12日～ 3月31日	博物館	第46回企画展『山王塚古墳—上円下方墳の謎に迫る—』に展示	山王塚古墳出土遺物他35点

### 9-2 市指定文化財の活用状況

#### (1) 時の鐘

種別 市指定有形文化財 建造物  
所在地 幸町15-7

時の鐘は、江戸時代初期に川越城主酒井忠勝により現在の場所に創建されたと伝わる。大火による焼失を繰り返し、現在の時の鐘は明治26年（1893）の川越大火の翌年に再建された。

現在では小江戸川越のシンボルとなっている。自動鐘打機による1日4回の鐘つき（午前6時、

正午、午後3時、午後6時に各6打ずつ）と夜間ライトアップ（午後10時まで）を行っている。

平成30年度は、時の鐘耐震化工事（平成27・28年度）に伴い行った基壇部分の発掘調査で出土した玉石等を保存活用するため、薬師神社境内の児童遊園跡地を「時の鐘広場」として整備し、玉石を利用した植込みや説明板の設置を行った。



## 川越市による活用

	月日	件名	内容
1	8月6・9日	原爆の日における時の鐘の点鐘	広島市及び長崎市の原爆死没者の冥福と平和を祈念するため、原爆投下の同日同時刻に点鐘した。

## 他団体による活用

	月日	件名	団体名	内容
1	7月27・28日	小江戸夏まつりオリエンテーリング	川越百万灯夏まつり実行委員会	川越百万灯夏まつりの一環で行うオリエンテーリングのチェックポイントを設置した。
2	12月31日～1月1日	除夜の鐘	川越薬師講	NPO法人川越蔵の会の協力の元、大晦日の除夜の鐘として市民等が時の鐘を108回打った。

## (2) 永島家住宅（旧武家屋敷）

種別 市指定記念物 史跡  
所在地 三久保町5-3

永島家住宅は、川越城南大手門近くの武家地であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた中級武士の武家屋敷である。平成21年に建物の一部と土地の寄付を受け、平成24年3月から庭園の公開を開始した。平成28年度に残りの建物部分が寄付され、土地・建物の全てが市の所有となった。



### 庭園公開

一般公開 毎週土曜日（12月29日～1月3日除く）  
特別公開 川越まつり（日曜日）、5月3・4・6日（木・金・日）  
※市民の日（12月1日）は土曜日のため一般公開日となった。  
公開時間 午前9時～午後4時

### 見学者数

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
見学人数	164	516	139	53	97	107	829	196	114	172	126	160	2,673

## (3) 川越城中ノ門堀跡

種別 県指定史跡「川越城跡」の一部  
所在地 郭町1-8-6

川越城は長禄元年（1457）に太田道真・道灌父子により築城され、江戸時代まで存続した。中ノ門堀は、江戸時代の正保年間（1644～47）に川越藩主松平信綱が行った城の拡張工事に伴って築造された堀と考えられる。

明治以降に旧城内の宅地化が進む中、堀跡としては唯一埋め立てられず残存していた。平成 20 年度に市が用地取得、平成 21 年度に整備を行い、平成 22 年度から公開している。

#### 活用の状況

公開時間 午前 9 時～午後 5 時  
(12 月 29 日～1 月 3 日除く)



### 9-3 他部局所管の文化財施設の状況

#### (1) 川越城本丸御殿〔博物館〕

指定名称 川越城本丸御殿及び家老詰所  
種 別 県指定有形文化財 建造物  
所 在 地 郭町 2-13-1

本丸御殿は嘉永元年（1848）に当時の城主松平大和守齊典により建築された御殿建築。明治以降次第に解体され、玄関と大広間部分のみが残っている。昭和 42 年の県指定後に復原修理し、一般公開を開始した。家老詰所は昭和 62 年に復原移築された。



#### 活用の状況

開館時間 午前 9 時～午後 5 時  
休 館 日 月曜日（休日の場合は翌日）、第 4 金曜日（休日を除く）、12 月 29 日～1 月 3 日

#### 現状変更・修理等の状況

なし

#### (2) 川越市蔵造り資料館〔博物館〕

指定名称 旧小山家住宅（店蔵・袖蔵）、  
旧小山家住宅（住居棟、一番蔵、二番蔵、三番蔵、便所棟、稲荷社、門及び塀）  
種 別 市指定有形文化財 建造物  
所 在 地 幸町 7-9

明治 26 年（1893）の川越大火直後に、煙草商を営む小山家（屋号万文）が建設した蔵造り商家。昭和 52 年から川越市文化財保護協会により蔵造り資料館として公開され、昭和 58 年に教育委員会の所管となった。



## 活用の状況

耐震化工事のため休館。

## 現状変更・修理等の状況

蔵造り資料館耐震化工事（平成28年10月18日～令和3年）

### （3）旧川越織物市場、旧栄養食配給所〔都市景観課〕

指定名称及び所在地

旧川越織物市場 松江町2-11-10

旧栄養食配給所 松江町2-12-4

種 別 市指定有形文化財 建造物

旧川越織物市場は明治43年（1910）、衰退する川越の織物流通業界の起死回生策として建設された。旧栄養食配給所は当初は事務所だったとみられる建物で、昭和9年（1934）から昭和20年まで栄養食配給所が開設されていた。平成14年に建物、平成25年に土地を市が取得し、平成26年度から活用に向けた調査等を行っている。



## 現状変更・修理等の状況

一部敷地内フェンス設置（新設）

### （4）川越市旧山崎家別邸、川越市旧山崎家庭園〔観光課〕

指定・登録名称及び種別

山崎家別邸 市指定有形文化財 建造物

旧山崎氏別邸庭園 国登録記念物 名勝地

所在地 松江町2-7-8

山崎家別邸は、「亀屋」の5代目嘉七氏の隠居所として大正13年（1924）に建設された、洋折衷住宅と和風庭園。保岡勝也が設計した。

平成18年に市の所有となり、平成26年度に建物改修工事、平成27年度に植栽工事等を実施。平成28年度から庭園・母屋を一般公開している。



## 活用の状況

通常公開のほか、2階特別公開（9月3～9日、3月23～24日）、プロジェクションマッピングイベント（9月3～9日）、享保雛・古今雛展示（2月16日～3月10日）を実施した。

開館時間 4月～9月 午前9時30分～午後6時30分

10月～3月 午前9時30分～午後5時30分

休館日 第1・3水曜日、12月29日～1月1日

## 現状変更・修理等の状況

茶室建具修繕

### (5) 川越市産業観光館〔産業振興課〕

登録名称 旧鏡山酒造明治蔵、旧鏡山酒造大  
正蔵、旧鏡山酒造昭和蔵  
種 別 国登録有形文化財  
所 在 地 新富町1-10-1



明治8年(1875)に創業した鏡山酒造の酒蔵である。平成12年(2000)に廃業した翌年市が土地と建物を取得し、平成19～20年度に建物改修工事を実施した。平成22年度から産業観光館「小江戸蔵里」として活用している。

## 活用の状況

指定管理により、地域の特産物などを提供する飲食・物販施設として活用している。

## 現状変更・修理等の状況

なし

## 9-4 文化財の公開

平成30年度に公開届の提出された文化財は以下のとおりである。

### (1) 博物館等での公開(1件)

	公開期間	公開した文化財	公開施設	展示会名称
1	7月14日～ 9月2日	県指定 古文書 大野家文書2点	埼玉県立歴史と民俗 の博物館	企画展「古文書大公開！ ～みる・よむ・しらべる埼玉」

### (2) 川越まつり会館での山車展示(3件)

	公開期間	指定区分	公開した山車	保有町内
1	6月28日～8月21日	県指定	川越氷川祭の山車(浦島の山車)	松江町2丁目
2	8月23日～10月23日	市指定	川越氷川祭の山車(龍神の山車)	松江町1丁目
3		県指定	川越氷川祭の山車(弁慶の山車)	志多町



## 10 埋蔵文化財

川越市内には、345カ所の埋蔵文化財包蔵地があり、これらは国・県の指導により分布調査を行い設定したものである。この包蔵地内で土木工事などの開発行為を行う場合には、工事に先立って、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要である。平成30年度は以下のとおり64件の試掘調査を実施した。

試掘調査により埋蔵文化財の存在が認められた場合は開発者側と保存について協議を行い、開発によって破壊を免れない埋蔵文化財については、遺跡の姿を後世に伝えることを目的とした緊急発掘調査を実施している。平成30年度は8件の発掘調査を行い、多くの遺構が検出され、遺物が出土している。

### 10－1 埋蔵文化財調査一覧

#### (1) 発掘調査件数の推移

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10年間の合計
件数	15	7	10	6	4	1	4	4	4	8	63件
前年度からの継続	1	2	2	1	0	1	0	1	1	0	－
合計	16	9	12	7	4	2	4	5	5	8	－

#### (2) 発掘調査一覧

	遺跡名	調査回数	調査地番	原因	調査面積
			調査期間	調査主体	時代
1	登戸遺跡	2次	下小坂110-1	物流施設建設	370㎡
			4月9日～5月9日	遺跡調査会	縄文
2	南本町遺跡	2次	大字笠幡2079-1、2080-1	店舗建設に伴う造成	1,054㎡
			5月25日～7月13日	遺跡調査会	古代
3	弁天南遺跡	15次	仙波町3-9-25	個人住宅建設	30㎡
			8月24日～9月12日	教育委員会	中世
4	川越城跡	35次	郭町2-25-11	三芳野神社社殿保存修理工事	55㎡
			9月18日～10月5日	教育委員会	近世
5	川越城跡	36次	郭町2-11-32	個人住宅建設	15㎡
			10月1日・2日	教育委員会	近世
6	川越城跡	37次	大手町4-3、9-3・21	民間施設建設	400㎡
			1月7日～3月29日	遺跡調査会	古墳・中世
7	小仙波2丁目A遺跡	3次	小仙波2-20-7	個人住宅穿設	80㎡
			2月18日～2月21日	遺跡調査会	縄文
8	五畑東遺跡	4次	的場794-1・9	分譲住宅建築	180㎡
			2月28日～3月29日	遺跡調査会	古代

## (3) 試掘調査一覧

《結果欄について》

遺構なし…× 遺構あり…○ 本発掘調査実施…◎

	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
1	4月 3日	大字的場 429 - 11 ほか	87㎡	八幡前・若宮遺跡	×
2	4月 6日	大字下小坂 325 - 6	366㎡	下小坂古墳群	×
3	4月 9日	大字笠幡 1886 - 3	387㎡	入遺跡	×
4	4月 17日	郭町 2 - 25 - 11	2㎡	川越城跡	×
5	4月 18日	大字笠幡 2078 - 1	630㎡	南本町遺跡	×
6	4月 23日	大字上戸 279 - 6	202㎡	日枝神社遺跡	×
7	4月 23日	大字並木 372 - 5 ほか	494㎡	並木遺跡	×
8	4月 27日	大字寺尾 288 - 16	132㎡	寺尾貝塚	×
9	5月 7日	大字笠幡 3609 - 2	454㎡	烏ヶ谷戸前遺跡	×
10	5月 30日	大字寺尾 120 の一部	33㎡	寺尾貝塚	×
11	6月 4日	仙波町 3 - 13 - 9	188㎡	弁天西遺跡	○
12	6月 7日	大字寺尾 273 - 9 ほか	162㎡	寺尾貝塚	×
13	6月 26日	大字的場 2856 - 9	61㎡	霞ヶ関遺跡	×
14	7月 9日	岸町 2 - 23 - 4 ほか	1,964㎡	岸町横穴群	×
15	7月 10日	郭町 2 - 11 - 32	232㎡	川越城跡	◎
16	7月 13日	小仙波町 5 - 8 - 8 の一部	214㎡	弁天西遺跡	×
17	7月 19日	大字的場 2463 - 13	101㎡	下宿東遺跡	×
18	7月 24日	大字鯨井 1863 - 9	326㎡	花見堂遺跡	×
19	7月 27日	仙波町 3 - 9 - 25 の一部	64㎡	弁天南遺跡	◎
20	8月 2日	大字上戸 188 - 2	103㎡	天王遺跡	×
21	8月 16日	大字寺尾 892 - 8	101㎡	田成遺跡	×
22	8月 20日	豊田町 2 - 2 - 4 ほか	734㎡	天屋坂遺跡	×
23	8月 22日	小仙波町 4 - 3 - 11	151㎡	小仙波 4 丁目遺跡	×
24	8月 29日	大字的場 2464 - 30	101㎡	牛塚遺跡	○
25	9月 5日	藤原町 24 - 12	150㎡	藤原町遺跡	○
26	9月 5～6日	寺尾 199 - 1、200 - 3	1,106㎡	寺尾貝塚	×
27	9月 6日	小仙波 4 - 10 - 12 ほか	330㎡	小仙波 4 丁目遺跡	○
28	9月 7日	大字吉田 70 - 57	330㎡	堂山遺跡	×
29	9月 11日	大字鯨井 1864 - 13	200㎡	花見堂遺跡	×
30	9月 13～14日	大字下広谷 877 - 1	1,221㎡	古海道東遺跡	○
31	9月 25日	上戸新町 15 - 3	164㎡	霞ヶ関遺跡	×
32	9月 27日	寿町 1 - 2280 - 2	330㎡	広栄町遺跡	×
33	9月 28日	小仙波町 4 - 9 - 29	305㎡	小仙波 4 丁目遺跡	×
34	10月 9日	小仙波町 1 - 20 - 1	1,500㎡	喜多院境内遺跡	○
35	10月 17日	大字南田島 449	409㎡	南田島遺跡	×
36	10月 18～19日	大手町 4 - 4 - 3 ほか	1,166㎡	川越城跡	◎
37	10月 22日	仙波町 3 - 14 - 15	244㎡	弁天西遺跡	○
38	10月 22日	郭町 2 - 4 - 101 ほか	210㎡	川越城跡	○
39	10月 24日	大字寺尾 222 - 1	357㎡	寺尾貝塚	×
40	10月 26日	大字並木 883 - 1 ほか	649㎡	並木遺跡	×
41	11月 12日	大字的場 899 - 1	181㎡	八幡前・若宮遺跡	×
42	11月 14日	大字上戸 185 - 8 ほか	205㎡	天王遺跡	○
43	11月 15日	大字笠幡 1860 - 1 ほか	492㎡	笠丹草遺跡	×
44	11月 27日	大字的場 794 - 2 ほか	544㎡	五畑東遺跡	◎

	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
45	12月 4日	仙波町3-22の一部	128㎡	弁天南遺跡	○
46	12月 13日	小仙波町5-8-40	108㎡	弁天西遺跡	○
47	12月 14日	大字笠幡3609-3	227㎡	烏ヶ谷戸前遺跡	×
48	12月 17日	霞ヶ関東1-21-25	100㎡	豊後山遺跡	×
49	12月 18日	小仙波町2-20-7	193㎡	小仙波2丁目A遺跡	◎
50	12月 20日	大字寺尾111-10ほか	101㎡	寺尾貝塚	×
51	12月25～27日	仙波町3-5-6ほか	1,531㎡	弁天南遺跡	○
52	12月 26日	大字寺尾264-2	223㎡	寺尾貝塚	×
53	1月 8日	仙波町1-12-17	208㎡	弁天西遺跡	×
54	1月16～17日	大字安比奈新田293-1	998㎡	水窪林遺跡	×
55	1月 18日	小仙波町4-14-23	104㎡	小仙波4丁目遺跡	×
56	1月 22日	郭町2-3-1	115㎡	川越城跡	○
57	1月 28日	上戸字天王177-1	99㎡	天王遺跡	×
58	2月6～7日	大字並木902-1ほか	2,735㎡	並木遺跡	×
59	2月 12日	大字上戸377-4、9	174㎡	龍光遺跡	○
60	2月25～26日	上戸新町25-12	1,921㎡	霞ヶ関遺跡	○
61	2月25～26日	宮下町1-100-20	45㎡	川越城跡	×
62	3月 12日	南田島1618-1の一部	596㎡	南田島遺跡	×
63	3月 13日	大字寺尾69の一部	179㎡	寺尾貝塚	×
64	3月27～28日	大字寺尾888-15	789㎡	田成遺跡	○

## 10 - 2 試掘調査

### No. 1 八幡前・若宮遺跡 (19 - 59)

調査地番 大字的場 429 - 11 ほか

調査面積 87㎡

調査日時 平成 30 年 4 月 3 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



### No. 2 下小坂古墳群 (19 - 146)

調査地番 大字下小坂 325 - 6

調査面積 366㎡

調査日時 平成 30 年 4 月 6 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



### No. 3 入遺跡 (19 - 198)

調査地番 大字笠幡 1886 - 3

調査面積 387㎡

調査日時 平成 30 年 4 月 9 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



### No. 4 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 25 - 11

調査面積 2㎡

調査日時 平成 30 年 4 月 17 日

調査原因 防犯カメラ設置

調査結果 遺構なし



No. 5 南本町遺跡 (19 - 199)

調査地番 大字笠幡 2078 - 1  
調査面積 630㎡  
調査日時 平成 30 年 4 月 18 日  
調査原因 店舗建設  
調査結果 遺構なし



No. 6 日枝神社遺跡 (19 - 44)

調査地番 大字上戸 279 - 6  
調査面積 202㎡  
調査日時 平成 30 年 4 月 23 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



No. 7 並木遺跡 (19 - 329)

調査地番 大字並木 372 - 5 ほか  
調査面積 494㎡  
調査日時 平成 30 年 4 月 23 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No. 8 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 288 - 16  
調査面積 132㎡  
調査日時 平成 30 年 4 月 27 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No. 9 鳥ヶ谷戸前遺跡 (19 - 285)

調査地番 大字笠幡 3609 - 2

調査面積 454㎡

調査日時 平成 30 年 5 月 7 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.10 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 120 の一部

調査面積 33㎡

調査日時 平成 30 年 5 月 30 日

調査原因 自治会館

調査結果 遺構なし



No.11 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町 3 - 13 - 9

調査面積 188㎡

調査日時 平成 30 年 6 月 4 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり (中世・地下式抗)



No.12 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 273 - 9 ほか

調査面積 162㎡

調査日時 平成 30 年 6 月 7 日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.13 霞ヶ関遺跡 (19-51)

調査地番 大字の場 2856-9  
調査面積 61㎡  
調査日時 平成30年6月26日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.14 岸町横穴群 (19-83)

調査地番 岸町2-23-4ほか  
調査面積 1,964㎡  
調査日時 平成30年7月9日  
調査原因 店舗建設  
調査結果 遺構なし



No.15 川越城跡 (19-89)

調査地番 郭町2-11-32  
調査面積 232㎡  
調査日時 平成30年7月10日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり



No.16 弁天西遺跡 (19-116)

調査地番 小仙波町5-8-8の一部  
調査面積 214㎡  
調査日時 平成30年7月13日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.17 下宿東遺跡 (19 - 311)

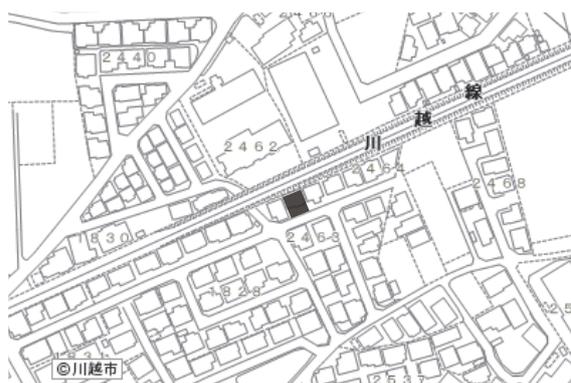
調査地番 大字的場 2463 - 13

調査面積 101㎡

調査日時 平成30年7月19日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.18 花見堂遺跡 (19 - 42)

調査地番 大字鯨井 1863 - 9

調査面積 326㎡

調査日時 平成30年7月24日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.19 弁天南遺跡 (19 - 118)

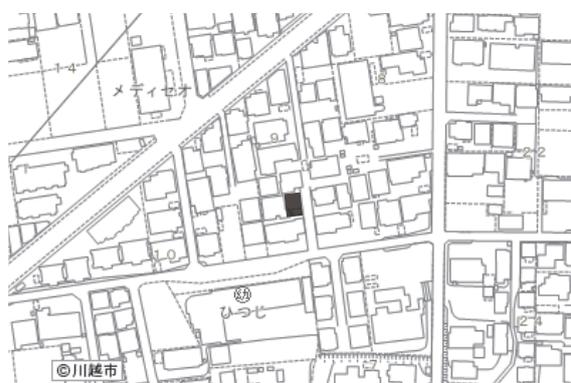
調査地番 仙波町 3 - 9 - 25 の一部

調査面積 64㎡

調査日時 平成30年7月27日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり



No.20 天王遺跡 (19 - 49)

調査地番 大字上戸 188 - 2

調査面積 103㎡

調査日時 平成30年8月2日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし





No.21 田成遺跡 (19 - 141)

調査地番 大字寺尾 892 - 8  
調査面積 101㎡  
調査日時 平成 30 年 8 月 16 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



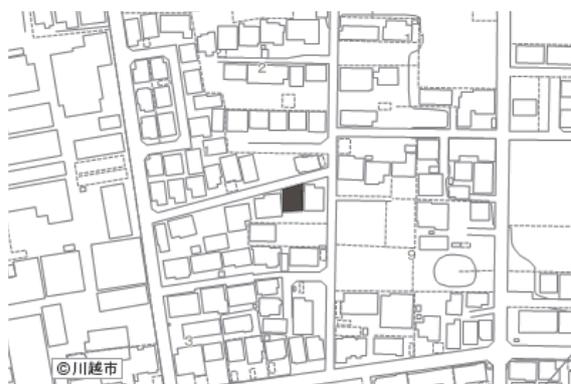
No.22 天屋坂遺跡 (19 - 157)

調査地番 豊田町 2 - 2 - 4 ほか  
調査面積 734㎡  
調査日時 平成 30 年 8 月 20 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



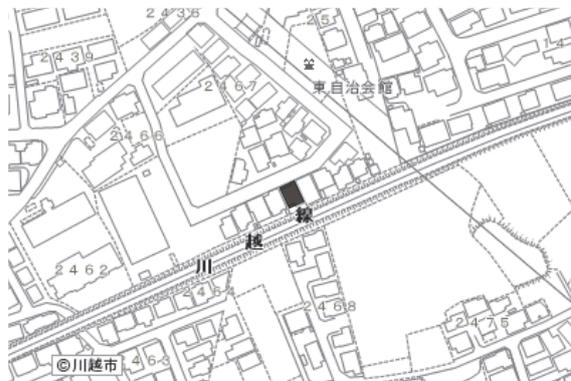
No.23 小仙波 4 丁目遺跡 (19 - 115)

調査地番 小仙波町 4 - 3 - 11  
調査面積 151㎡  
調査日時 平成 30 年 8 月 22 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.24 牛塚遺跡 (19 - 306)

調査地番 大字的場 2464 - 30  
調査面積 101㎡  
調査日時 平成 30 年 8 月 29 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり



No.25 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 藤原町 24-12

調査面積 150㎡

調査日時 平成30年9月5日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり(縄文・住居)



No.26 寺尾貝塚 (19-140)

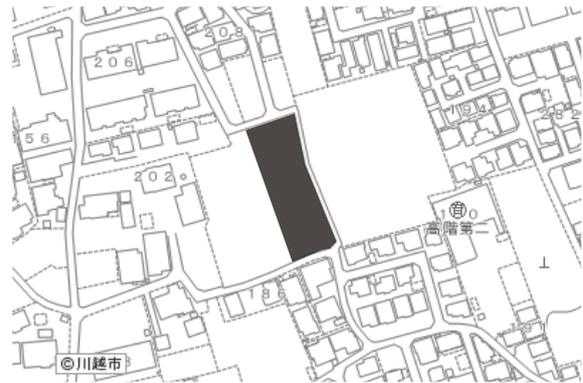
調査地番 寺尾 199-1、200-3

調査面積 1,106㎡

調査日時 平成30年9月5・6日

調査原因 宅地造成

調査結果 遺構なし



No.27 小仙波4丁目遺跡 (19-115)

調査地番 小仙波 4-10-12 ほか

調査面積 330㎡

調査日時 平成30年9月6日

調査原因 集合住宅

調査結果 遺構あり



No.28 堂山遺跡 (19-30)

調査地番 大字吉田 70-57

調査面積 330㎡

調査日時 平成30年9月7日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.29 花見堂遺跡 (19-42)

調査地番 大字鯨井 1864-13

調査面積 200㎡

調査日時 平成30年9月11日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.30 古海道東遺跡 (19-5)

調査地番 大字下広谷 877-1

調査面積 1,221㎡

調査日時 平成30年9月13・14日

調査原因 宅地造成

調査結果 遺構あり



No.31 霞ヶ関遺跡 (19-51)

調査地番 上戸新町 15-3

調査面積 164㎡

調査日時 平成30年9月25日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.32 広栄町遺跡 (19-52)

調査地番 寿町 1-2280-2

調査面積 330㎡

調査日時 平成30年9月27日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.33 小仙波 4 丁目遺跡 (19 - 115)

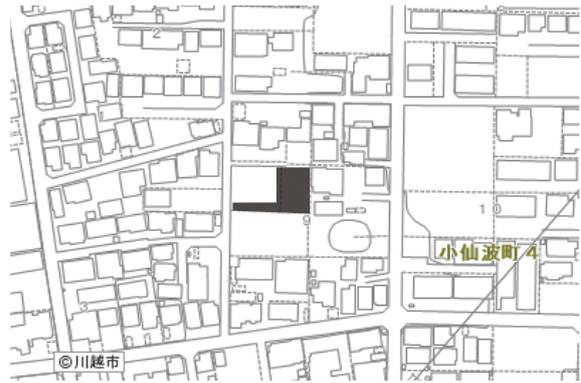
調査地番 小仙波町 4 - 9 - 29

調査面積 305㎡

調査日時 平成 30 年 9 月 28 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.34 喜多院境内遺跡 (19 - 110)

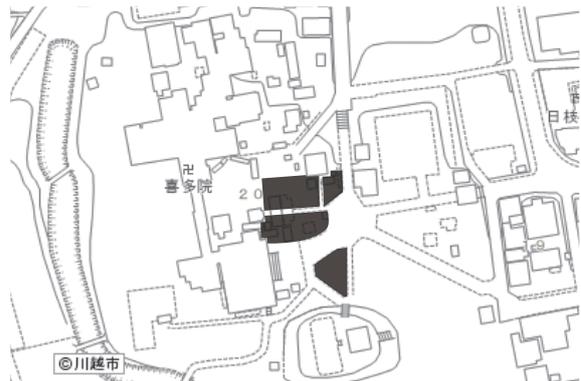
調査地番 小仙波町 1 - 20 - 1

調査面積 1,500㎡

調査日時 平成 30 年 10 月 9 日

調査原因 境内舗装

調査結果 遺構あり



No.35 南田島遺跡 (19 - 325)

調査地番 大字南田島 449

調査面積 409㎡

調査日時 平成 30 年 10 月 17 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.36 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 大手町 4 - 4 - 3 ほか

調査面積 1,166㎡

調査日時 平成 30 年 10 月 18・19 日

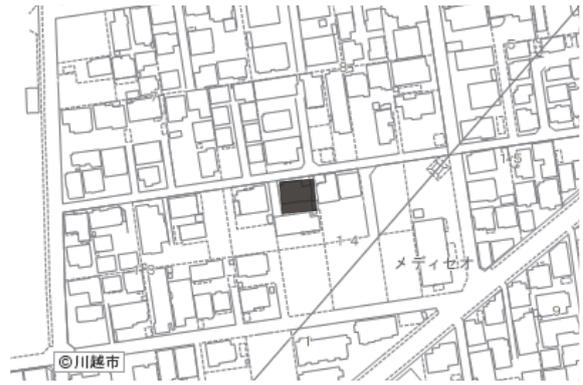
調査原因 福祉施設

調査結果 遺構あり



No.37 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町3 - 14 - 15  
調査面積 244㎡  
調査日時 平成30年10月22日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり



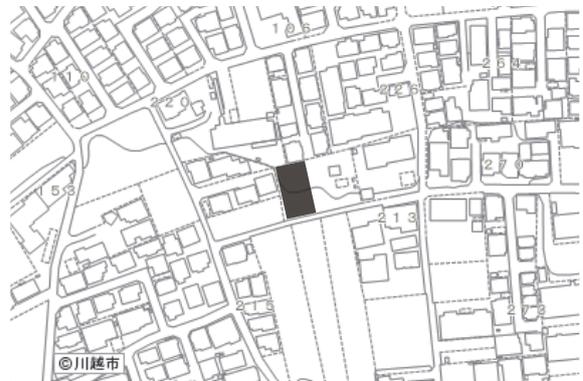
No.38 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町2 - 4 - 101 ほか  
調査面積 210㎡  
調査日時 平成30年10月22日  
調査原因 駐車場  
調査結果 遺構あり (近世・堀)



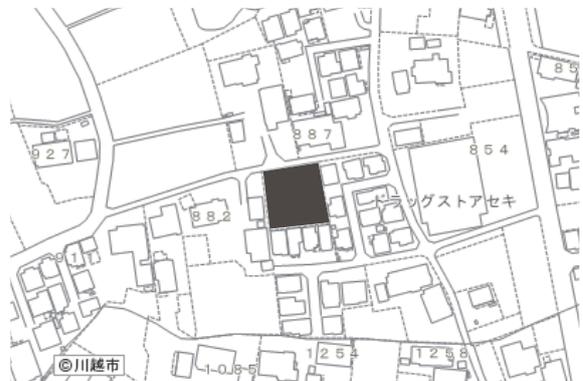
No.39 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾222 - 1  
調査面積 357㎡  
調査日時 平成30年10月24日  
調査原因 共同住宅  
調査結果 遺構なし



No.40 並木遺跡 (19 - 326)

調査地番 大字並木883 - 1 ほか  
調査面積 649㎡  
調査日時 平成30年10月26日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.41 八幡前・若宮遺跡 (19 - 59)

調査地番 大字的場 899 - 1

調査面積 181㎡

調査日時 平成 30 年 11 月 12 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.42 天王遺跡 (19 - 49)

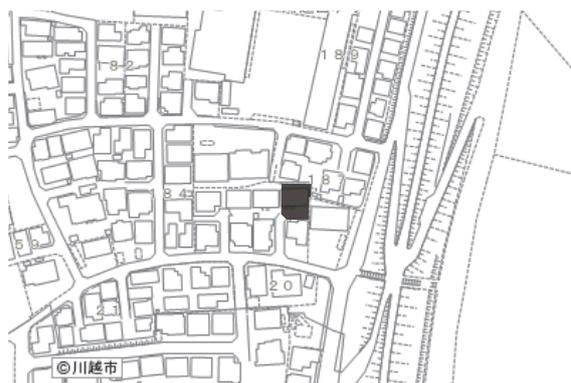
調査地番 大字上戸 185 - 8 ほか

調査面積 205㎡

調査日時 平成 30 年 11 月 14 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり



No.43 笠丹草遺跡 (19 - 197)

調査地番 大字笠幡 1860 - 1 ほか

調査面積 492㎡

調査日時 平成 30 年 11 月 15 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.44 五畑東遺跡 (19 - 296)

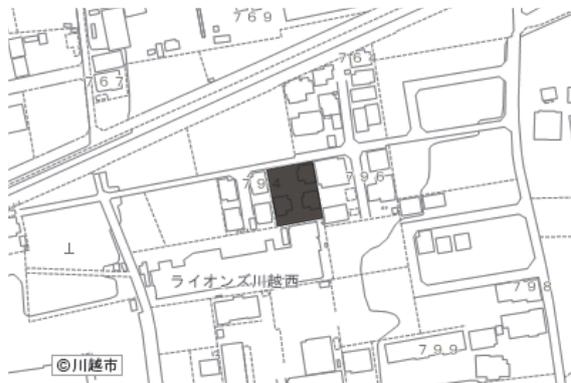
調査地番 大字的場 794 - 2 ほか

調査面積 544㎡

調査日時 平成 30 年 11 月 27 日

調査原因 宅地造成

調査結果 遺構あり



No.45 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町3 - 22 - 7. 8の各一部

調査面積 128㎡

調査日時 平成30年12月4日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり



No.46 弁天西遺跡 (19 - 116)

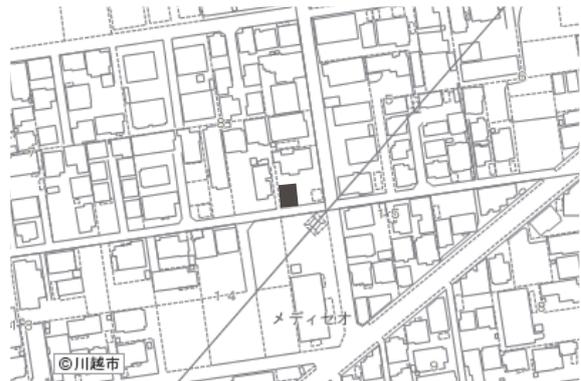
調査地番 小仙波町5 - 8 - 40

調査面積 108㎡

調査日時 平成30年12月13日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり



No.47 鳥ヶ谷戸前遺跡 (19 - 285)

調査地番 大字笠幡3609 - 3

調査面積 227㎡

調査日時 平成30年12月14日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.48 豊後山遺跡 (19 - 305)

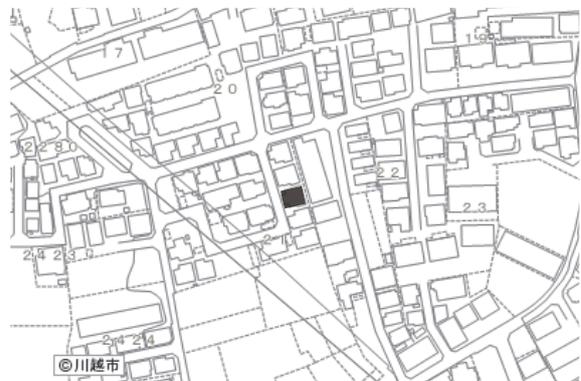
調査地番 霞ヶ関東1 - 21 - 25

調査面積 100㎡

調査日時 平成30年12月17日

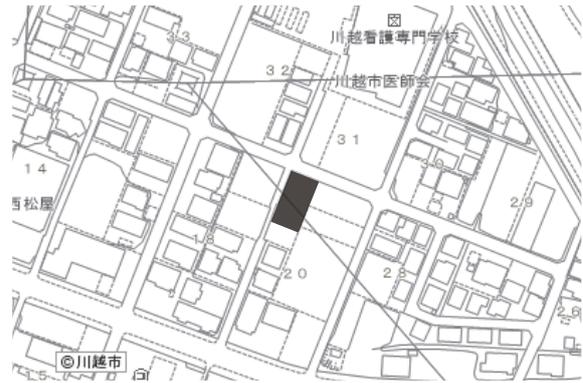
調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.49 小仙波 2丁目 A 遺跡 (19 - 106)

調査地番 小仙波町 2 - 20 - 7  
調査面積 193㎡  
調査日時 平成 30 年 12 月 18 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり



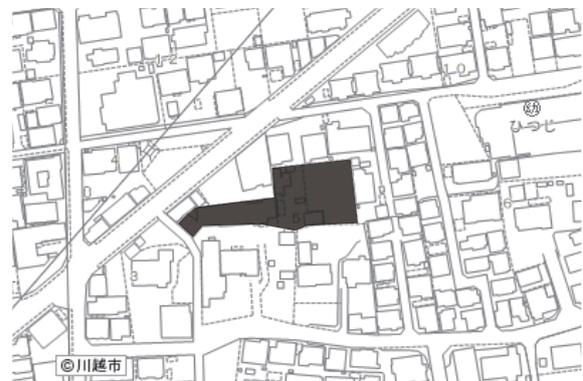
No.50 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 111 - 10 ほか  
調査面積 101㎡  
調査日時 平成 30 年 12 月 20 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.51 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町 3 - 5 - 6 ほか  
調査面積 1,531㎡  
調査日時 平成 30 年 12 月 25 ~ 27 日  
調査原因 集合住宅ほか  
調査結果 遺構あり



No.52 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 264 - 2  
調査面積 223㎡  
調査日時 平成 30 年 12 月 26 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし





No.53 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町1 - 12 - 17  
調査面積 208㎡  
調査日時 平成30年1月8日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.54 水窪林遺跡 (19 - 65)

調査地番 大字安比奈新田293 - 1  
調査面積 998㎡  
調査日時 平成30年1月16・17日  
調査原因 福祉施設  
調査結果 遺構なし



No.55 小仙波4丁目遺跡 (19 - 115)

調査地番 小仙波町4 - 14 - 23  
調査面積 104㎡  
調査日時 平成30年1月18日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.56 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町2 - 3 - 1  
調査面積 115㎡  
調査日時 平成30年1月22日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構あり



No.57 天王遺跡 (19 - 49)

調査地番 上戸字天王 177 - 1

調査面積 99㎡

調査日時 平成 30 年 1 月 28 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.58 並木遺跡 (19 - 326)

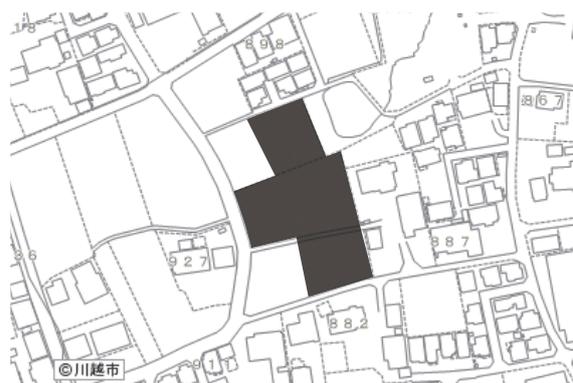
調査地番 大字並木 902 - 1 ほか

調査面積 2,735㎡

調査日時 平成 30 年 2 月 6 ・ 7 日

調査原因 宅地造成

調査結果 遺構なし



No.59 龍光遺跡 (19 - 47)

調査地番 大字上戸 377 - 4、9

調査面積 174㎡

調査日時 平成 30 年 2 月 12 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり (中世・溝路)



No.60 霞ヶ関遺跡 (19 - 51)

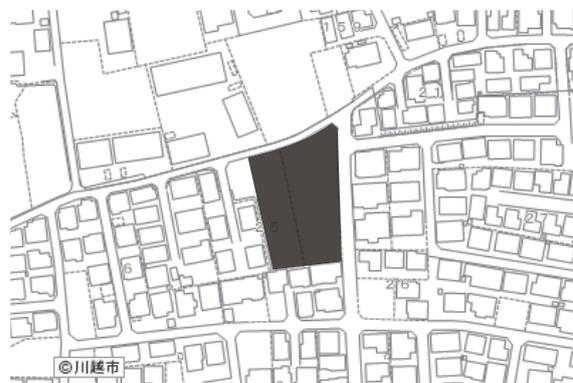
調査地番 上戸新町 25 - 12

調査面積 1,921㎡

調査日時 平成 30 年 2 月 25 ・ 26 日

調査原因 宅地造成

調査結果 遺構あり



No.61 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 宮下町 1 - 100 - 20  
調査面積 45㎡  
調査日時 平成 30 年 2 月 25・26 日  
調査原因 歩道整備  
調査結果 遺構なし



No.62 南田島遺跡 (19 - 325)

調査地番 南田島 1618 - 1 の一部  
調査面積 596㎡  
調査日時 平成 30 年 3 月 12 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.63 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 69 の一部  
調査面積 179㎡  
調査日時 平成 30 年 3 月 13 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



No.64 田成遺跡 (19 - 141)

調査地番 大字寺尾 888 - 15  
調査面積 789㎡  
調査日時 平成 30 年 3 月 27・28 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



## 10－3 教育委員会の発掘調査

### (1) 弁天南遺跡第15次調査

調査地番 仙波町3-9-25  
調査期間 平成30年8月24日～9月12日  
調査面積 30㎡  
調査原因 個人住宅建築  
通知番号 川教文発第342号  
平成30年7月27日



#### 遺跡概要

弁天南遺跡は武蔵野台地の最北端、荒川や入間川による沖積低地へ半島状に突き出た川越台の東側縁辺部に位置する縄文時代前期、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡である。近接する小仙波四丁目遺跡、弁天西遺跡とともに古墳時代前期から大集落を形成し、以後は間断なく集住している。また中世以降も堀跡や地下式坑などの遺構が確認されている。

#### 調査の概要

第15次調査区は東側に沖積低地、南側に小支谷を臨む。調査の結果、地下式坑3基を検出した。検出した地下式坑はいずれも室部の一部で、縦坑はいずれも調査区外に設定されたと考えられる。2・3号地下式坑は平面形L字状を呈するものと考えられる。地下式坑に伴う遺物の出土はないが、中世の所産と考えられる。

地下式坑の天井はいずれも落ちており、1・2号地下式坑の上には、深さ30cm程度で平面不定形の縦穴遺構が重複している。

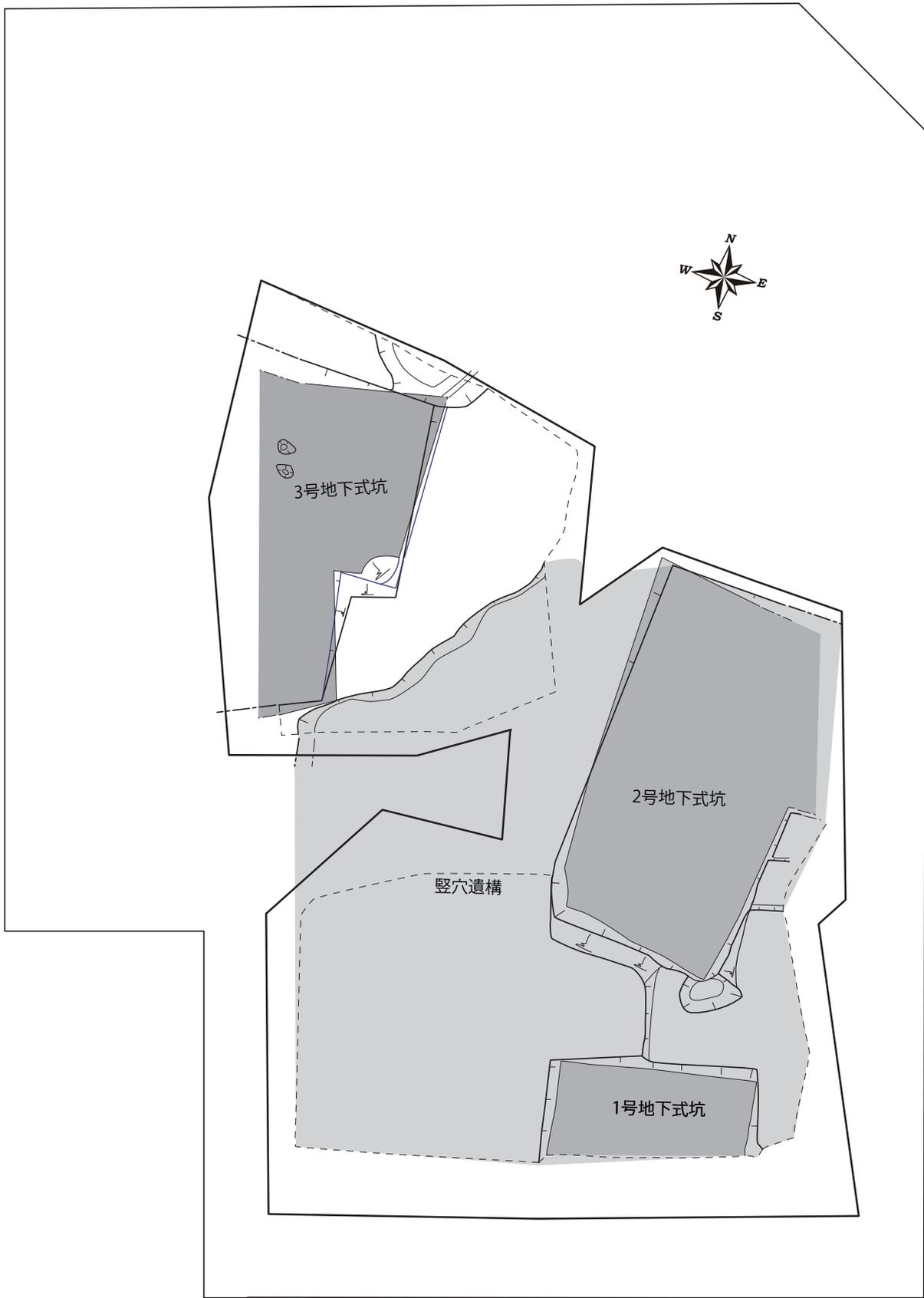
これら遺構の覆土からは焼土やカマドの袖材と考えられる粘土塊のほか、縄文時代前期の土器片や古墳時代の須恵器、土師器も見られる。これまでの調査から、周囲は縄文時代前期と古墳時代以降の集落が展開していたことが解っていることから、これらの遺物は隣地の遺構から混入したものと考えられる。



調査風景



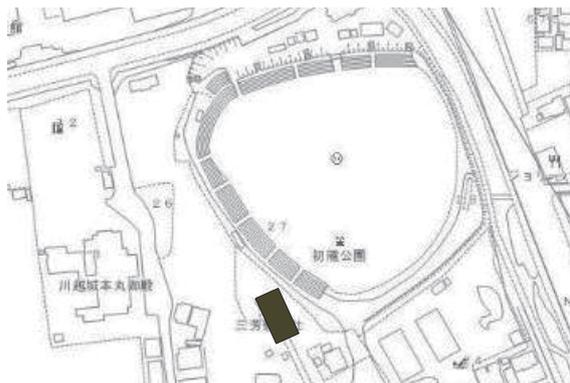
3号地下式坑 完掘状況



弁天南遺跡第 15 次調査 全体平面図

## (2) 川越城跡第 35 次調査

調査地番 郭町 2 - 25 - 11  
調査期間 平成 30 年 9 月 18 日～ 10 月 5 日  
調査面積 55㎡  
調査原因 三芳野神社社殿保存修理工事  
通知番号 川教文発第 297 号  
平成 30 年 7 月 25 日



### 調査の概要

三芳野神社拝殿正面の敷石や社殿周囲の雨落石組（以下、雨落）に不陸等の損朽が認められるため、社殿修理事業において据え直しを行うこととなった。据え直しは、石が据えられた基壇造成土の掘削工事を伴うため、工事に先立ち記録保存のための発掘調査を実施した。

発掘調査の目的は、敷石・雨落が当初の姿を留めているか、下部構造の確認、社殿と一体となる基壇造成土の構造の確認である。調査の結果、社殿基壇は、地表下約 80cm までローム主体の黄褐色土により造成されていることが確認され、雨落の石材は、基壇造成土に密着していることから、設置されて以降、大規模な改修はされていないことが判明した。また、拝殿南東正面の地下から雨落と同時期と推定される雨水排水用の石組暗渠が検出された。



拝殿東側 1 号トレンチ土層断面（南東から）



拝殿西側 4 号トレンチ土層断面（南から）



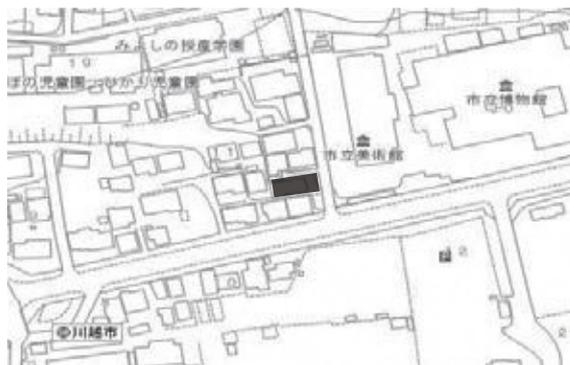
拝殿正面 7 号トレンチ土層断面（南東から）



暗渠完掘状況（南西から）

### (3) 川越城跡第 36 次調査

調査地番 郭町 2 - 11 - 32  
調査期間 平成 30 年 10 月 1 ・ 2 日  
調査面積 15㎡  
調査原因 個人住宅建築  
通知番号 川教文発第 455 号  
平成 30 年 9 月 11 日



#### 調査の概要

川越城跡は武蔵野台地の最北端、荒川や入間川による沖積低地へ半島状に突き出た川越台の北端部東側に位置する。第 36 次調査地点は北側へ傾斜する台地縁辺部に位置すると推測されるが、川越城の郭の造成に伴い地形は大きく改変されていると考えられる。江戸時代の川越城三の丸に相当する。

調査の結果、現地表面から約 2 m 下で地山のハードローム層を確認した。黒色土から関東ローム層上面のソフトロームにかけてはすでに削平されており、地山の直上に粘土質の土を叩き締めた厚さ約 50cm 造成面を確認した。

造成面の上面は既に削平されている可能性もあるが、郭の高低差を考えるうえでの好材料を得たといえる。



調査風景

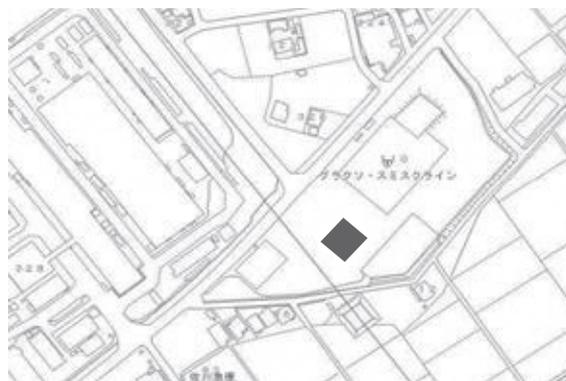


造成面確認状況

## 10－4 遺跡調査会の発掘調査

### (1) 登戸<sup>のぼりと</sup>遺跡第2次調査

調査地番 大字下小坂 110－1  
調査期間 平成30年4月9日～5月9日  
調査面積 370㎡  
調査原因 物流施設建設  
通知番号 教文資第2－1号  
平成30年4月19日



#### 調査の概要

遺跡は、小畔川左岸の台地縁辺部に立地し、調査場所は、遺跡の南西部に当たる。

検出された遺構は、縄文時代中期後半（加曽利E式）の土器片を含む包含層と時期不明の土坑1基であり、これらの遺構に伴い、遺物が少量出土した。土坑は、遺物包含層の下から検出され、長軸83cm、短軸34cm、深さ28cmであった。出土遺物はなかった。

試掘調査結果を踏まえた予想に反して現代の造成による大きな攪乱坑がみつき、全体に遺構の残存状況は良くなかった。



調査区全景（北から）



## (2) 南本町遺跡第2次調査

調査地番 大字笠幡 2079 - 1、2080 - 1  
調査期間 平成 30 年 5 月 25 日～7 月 13 日  
調査面積 1,054m<sup>2</sup>  
調査原因 店舗建築に伴う造成  
通知番号 教文資第 2 - 12 号  
平成 30 年 4 月 27 日



### 遺跡概要

南本町遺跡は市域西側の霞ヶ関地区、入間台地を解析する北小畔川と越辺川の支流である大谷川に挟まれた支台に所在する。調査区周辺は南へ向かって下がる緩斜面で、南方 300 m 程で北小畔川の沖積低地に至る。南西側に近接する 1 次調査では 8 世紀中葉～9 世紀前葉の竪穴建物跡が 3 軒検出されている。

### 調査の概要

第 2 次調査では、古代の竪穴建物跡 3 軒と井戸跡 1 基を検出した。

1 号竪穴建物跡は、調査区南側で検出した。東壁にカマドが 1 基設置されているが、中央よりも南側へ寄っている。また周溝は、北・西側では壁際よりも内側で検出しており、建物幅が拡張された可能性が読み取れる。須恵器の坏、蓋などが出土しており、建物跡は 8 世紀の所産である。

2 号竪穴建物跡は、調査区北側で検出した。北壁と東壁にカマドが 2 基設置されており、須恵器の坏や甕、土師器の甕が出土した。9 世紀の所産と考えられる。なお、1・2 号住居跡からはカマドの袖の芯材と考えられるチャートの長円礫や片岩の大形破片が出土している。

3 号竪穴建物跡は、2 号竪穴建物跡の東に隣接して検出した。須恵器の坏や甕、土師器の甕が出土した。9 世紀の所産と考えられる。カマドは 1 基、北側の壁で検出した。2 号竪穴建物跡のカマドが 3 号竪穴建物跡の西壁を壊しているため、3 号竪穴建物跡は 2 号竪穴建物跡に先行する。

1 号井戸跡は、1 号竪穴建物跡の北東側で検出した。確認面で直径 4.5 m である。漏斗状を呈し、確認面より深さ 2.5 m で、直径が 1 m 程度にすぼまり、そこからは垂直に落ちるものと考えられる。確認面より 1 m の深さで、9 世紀～10 世紀にかけての須恵器の坏、土師器甕などが集中して出土した。10 世紀に入り、井戸が埋められた際に廃棄されたものと考えられる。したがって井戸の廃絶は、住居の廃絶よりも新しい。



1 号井戸跡 遺物検出状況



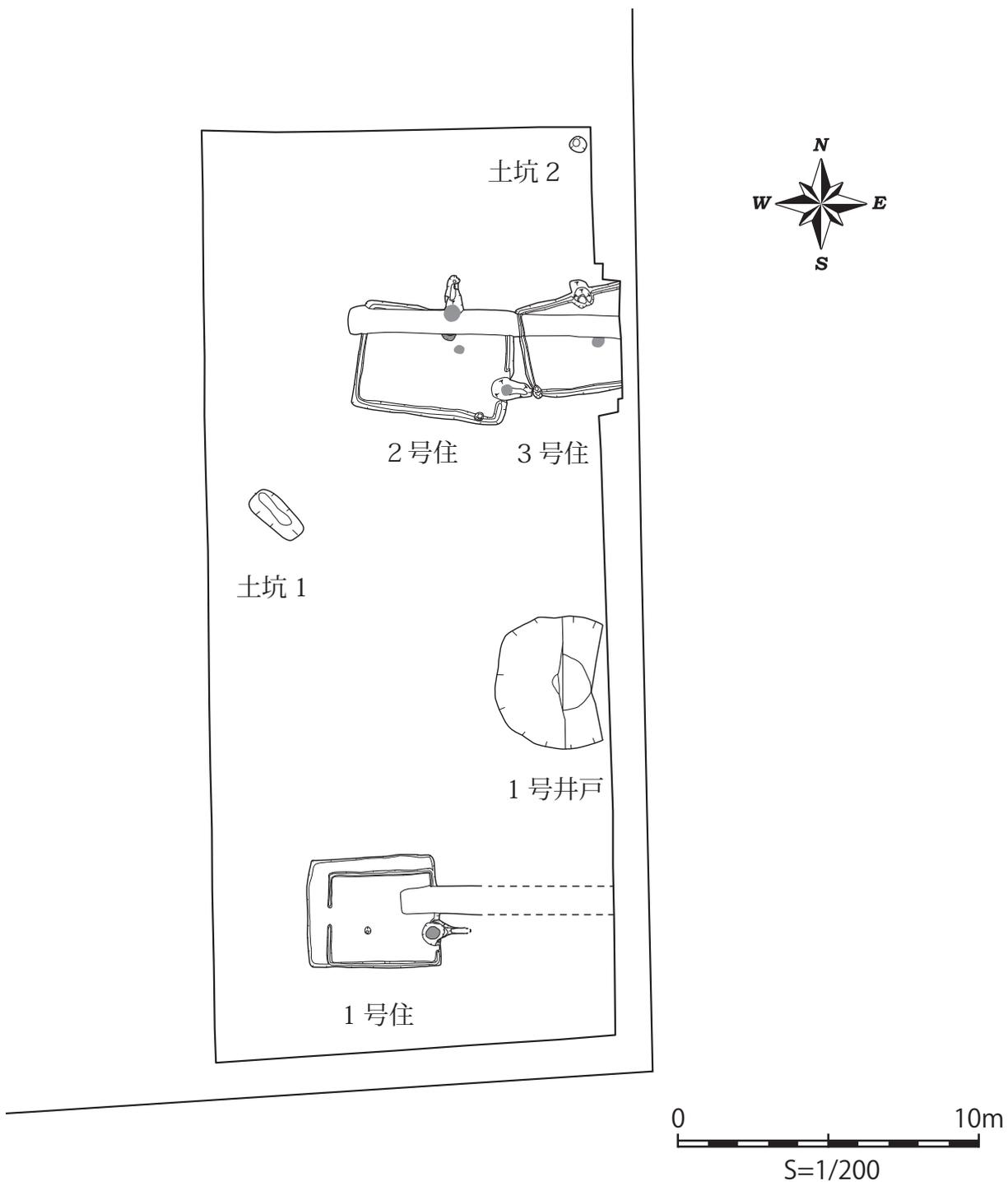
1 号井戸跡 遺物検出状況



1号竖穴建物跡 完掘状況



2・3号竖穴建物跡



南本町遺跡第2次調査 全体平面図

### (3) 川越城跡第 37 次調査

調査地番 大手町 4-3、9-3・21  
調査期間 平成 31 年 1 月 7 日～3 月 29 日  
調査面積 約 400㎡  
調査原因 民間施設建設  
通知番号 教文資第 2-43 号  
平成 30 年 11 月 28 日



#### 調査の概要

遺跡（川越城跡）は、川越台地（武蔵野台地北端部）の北東に立地し、調査場所は、台地縁辺部から少し内側の平坦部に位置する。今回の調査区域は、江戸時代の絵図によると川越城跡の南西隅付近の外側に当たる。

検出された遺構は、古墳時代後期末葉～終末期の古墳（周溝・横穴式石室）1基と中世の堀跡2条、溝跡4条、土坑10基、地下式坑9基である。

#### 古墳について

周溝全体のおよそ 1/3 が検出され、直径約 23 m（周溝内側の裾部で計測した推定値）の円墳と考えられる。墳丘（盛土部分）はすでに失われている状況であった。周溝は、残存していた部分で幅 2.3～2.9 m、深さ 0.7～0.9 m で、断面形は底面幅の広い箱形又は逆台形である。

石室は、上部が失われ、わずかに床面付近のみが残存している状況で検出された。構造は、開口部を南とする半地下式、河原石積の横穴式石室である。平面形は、側壁（長軸辺）がやや外側に張り出す形（胴張形）であり、室内部の規模は、全長約 5 m、幅は最大で 1.7 m、入口部で 1.2 m と狭くなっている。床面は、厚さ約 8 cm の礫敷きであった。

出土遺物は、石室から直刀<sup>ちよくとう</sup>1、金銅製柄頭<sup>つかがしら</sup>1、耳環<sup>じかん</sup>4、玉（ガラス製・土製）（複数）、鉄製鏝<sup>てつせいづぼ</sup>1、鉄鏃<sup>てつぞく</sup>（複数）、土器小片などの副葬品が出土した。直刀は、石室南西部の西側壁近くから、壁と併行に切っ先を南側、刃部を壁側（西側）に向けた状況で出土した。残念ながら先端の切っ先部分はすでに失われており、残存長約 60cm で刃部長は約 50cm であった。また、刀の近くからは、金銅製の柄頭が出土した。柄頭は、装飾付大刀の内、圭頭大刀<sup>けいとうたち</sup>に分類されるものである。直刀・柄頭・鉄鏃は床面あるいは床上の石室覆土から出土し、耳環・玉・鉄製鏝は床下から出土した。このことから床を作り直して追葬が行われた可能性がある。年代の指標となる柄頭の製作年代が 6 世紀末から 7 世紀前葉に位置付けられており、副葬までの時間を考慮すると、古墳の築造年代は、上記の年代から 7 世紀中葉までの年代幅が考えられる。

#### 中世後期の堀跡について

調査区の南側から東西にのびる堀跡 2 条が約 12 m にわたり検出された。1 号堀跡の規模は、残存していた部分で上幅 4.7～6.2 m、底面幅 1.6～2.8 m、深さ 1～1.5 m を測り、断面形は底面が幅広でやや丸みをおびている。堀の傾斜は、南側はゆるく、北側はそれよりも急になっている。2 号堀跡は、1 号堀跡の底面下より、堀の下部がわずかに残存した状況で検出された。上幅は 1.3～1.4 m、底面幅 0.5～0.6 m、深さ 0.4～0.6 m を測り、断面形は、底面に向かって急に細くなる箱薬研形であったのではないかと推定される。出土遺物は少なく、かわらけ（小片）が少量出土しているのみであるため、堀が構築され、機能していた時期の決定は難しい状況である。

堀の埋め土である厚い砂利層の中から近世陶磁器片が出土していることから江戸時代の初めに埋め戻された可能性も考えられる。

堀跡は、土層断面の観察や検出状況から2号堀を壊して底面が幅広の1号堀を構築したものと考えられる。堀跡の時期については、今後、他の遺構との新旧関係や出土した遺物の詳細な検討が必要だが、中世の河越城が築城された15世紀後半（長祿元年・1457）から後北条氏が支配した16世紀前半～後半までに機能した堀跡ではないかと推定される。

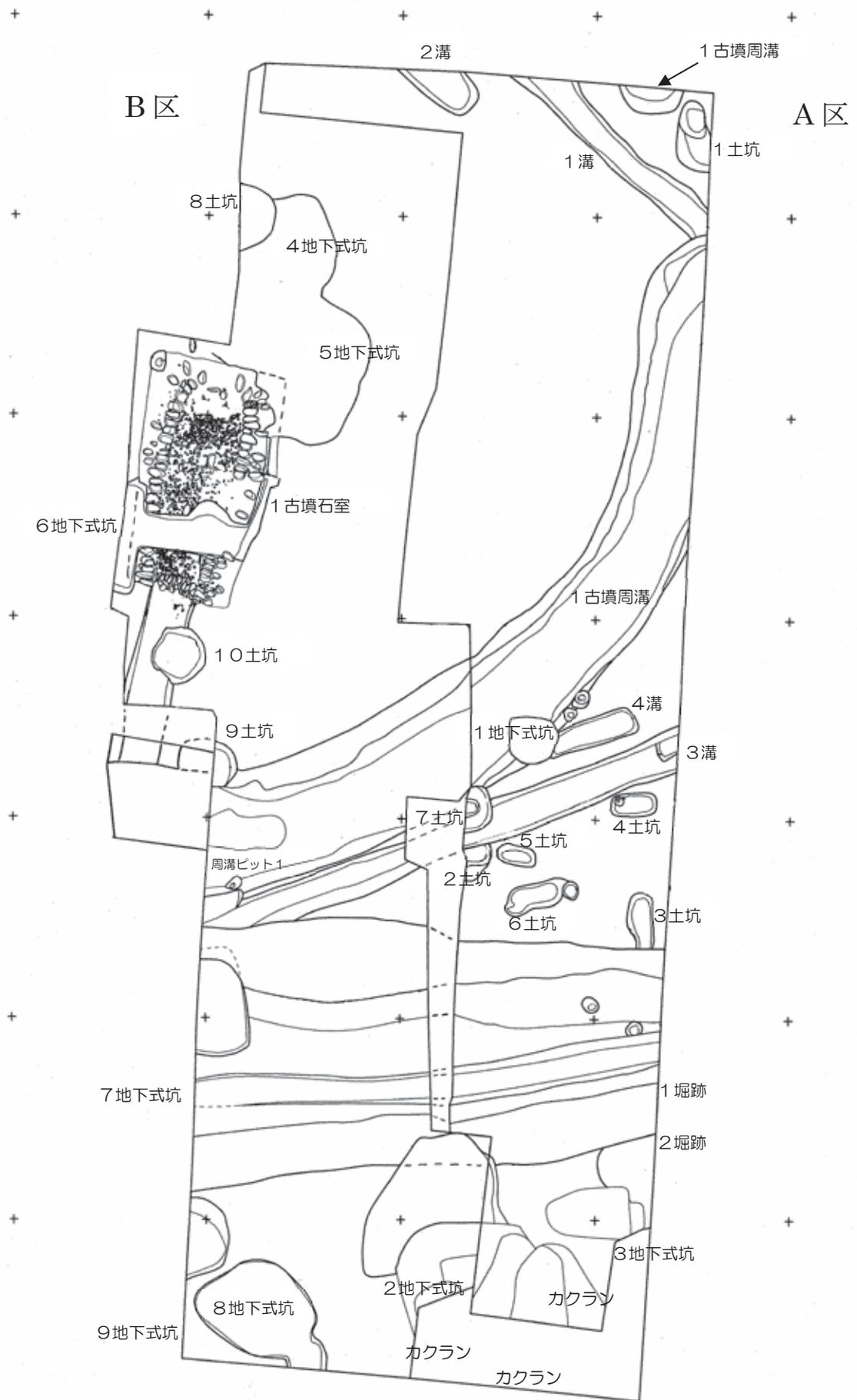
今回の主な調査成果は、旧市街地中心部での古墳の検出と、近世川越城跡の南西部で中世後期の堀跡が検出されたことである。



1号古墳完掘状況（A区 北東から）



1号古墳完掘状況（B区 上から）



川越城跡第37次調査 全体図 (S = 1/150)



1号古墳 石室床面礫敷き（北から）



1号古墳 直刀出土（西から）



1号古墳 金銅製柄頭出土



1号古墳 耳環出土



中世堀跡 完掘状況（A区 東から）



中世堀跡 完掘状況（B区 東から）



中世堀跡 土層断面（A区 西から）



中世堀跡 土層断面（B区 東から）

#### (4) 小仙波2丁目A遺跡第3次調査

調査地番 小仙波2-20-7  
調査期間 平成31年2月18～21日  
調査面積 約80㎡  
調査原因 個人住宅建設  
通知番号 教文資第2-55号  
平成31年1月31日



#### 調査の概要

小仙波2丁目A遺跡は、新河岸右岸で仙波台地の傾斜地にある。近接地では、第1次、第2次調査箇所があり、縄文、古墳、奈良、平安時代頃の集落跡が確認されている。

今回は、包含層の堆積状況を確認した。約15cm程の包含層が調査区全体に流れ込み、住居跡などの遺構は検出されなかった。遺物は、包含層から、古墳、奈良、平安時代頃と思われる土器の破片などが出土した。



土層図1



土層図2 包含層の下の土層状況



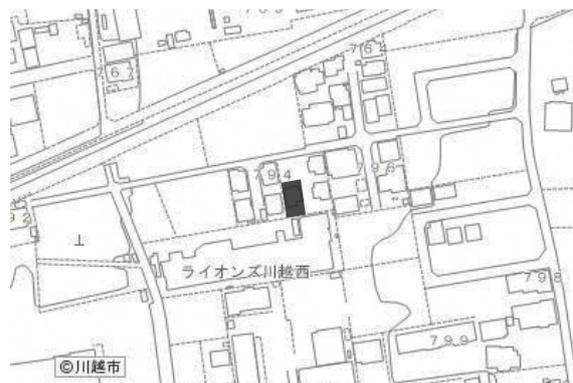
土層図3



調査区全体図

## (5) 五畑東遺跡第4次調査

調査地番	大字的場 794 - 2・9
調査期間	平成31年2月28日～3月29日
調査面積	180㎡
調査原因	分譲住宅建築
通知番号	教文資第2 - 53号 平成31年1月23日



### 遺跡概要

五畑東遺跡は川越市西側の霞ヶ関地区に所在する。入間川による沖積低地を南東に臨む、入間台地の縁辺に位置しており、南側1kmの地点には古代の駅家跡の一部とされる八幡前・若宮遺跡、東へ1kmの地点には古墳時代後期の前方後円墳・牛塚古墳や古代の集落である豊後山遺跡などが知られている。また、調査地点のすぐ東側を、古代の官道である東山道武蔵路が南北に走っていたと推定されている。

### 調査の概要

4次調査では、竪穴建物跡1軒のほか、土坑2基を検出した。竪穴建物跡では北側にカマドを1基検出したが、火床面は明確ではなく、柱穴も確認できなかった。出土遺物は多くないものの、須恵器の坏や甕が出土しており、8世紀前半の所産と考えられる。

土坑2基からはいずれも遺物の出土が無いため、掘削された時期は不明である。

第4次調査地点より南側、および西側には1～3次調査地点があり、奈良時代の竪穴建物跡が19軒検出されている。営まれた時期や、柱穴が不明瞭である点は共通しており、いずれも同じ集落の一部である。また、土坑も数多く検出されており、特に3次調査では近世の土壇墓が215基検出されている。調査区の北東側には現在、的場・法城寺管理の「五畑共同墓地」があるが、以前の墓域は周辺まで及んでいたと言われる。明治期に墓域が徐々に縮小され、現在の範囲となっている。検出された土壇墓は墓域の縮小に際して、改葬されずに取り残された無縁仏と考えられる。なお、土壇墓の出土遺物からは、18世紀前半に墓域となり、18世紀後半から19世紀前半にかけて徐々に増加、19世紀中葉にピークを迎えることがわかる。



1・2号土坑 完掘状況（北から）

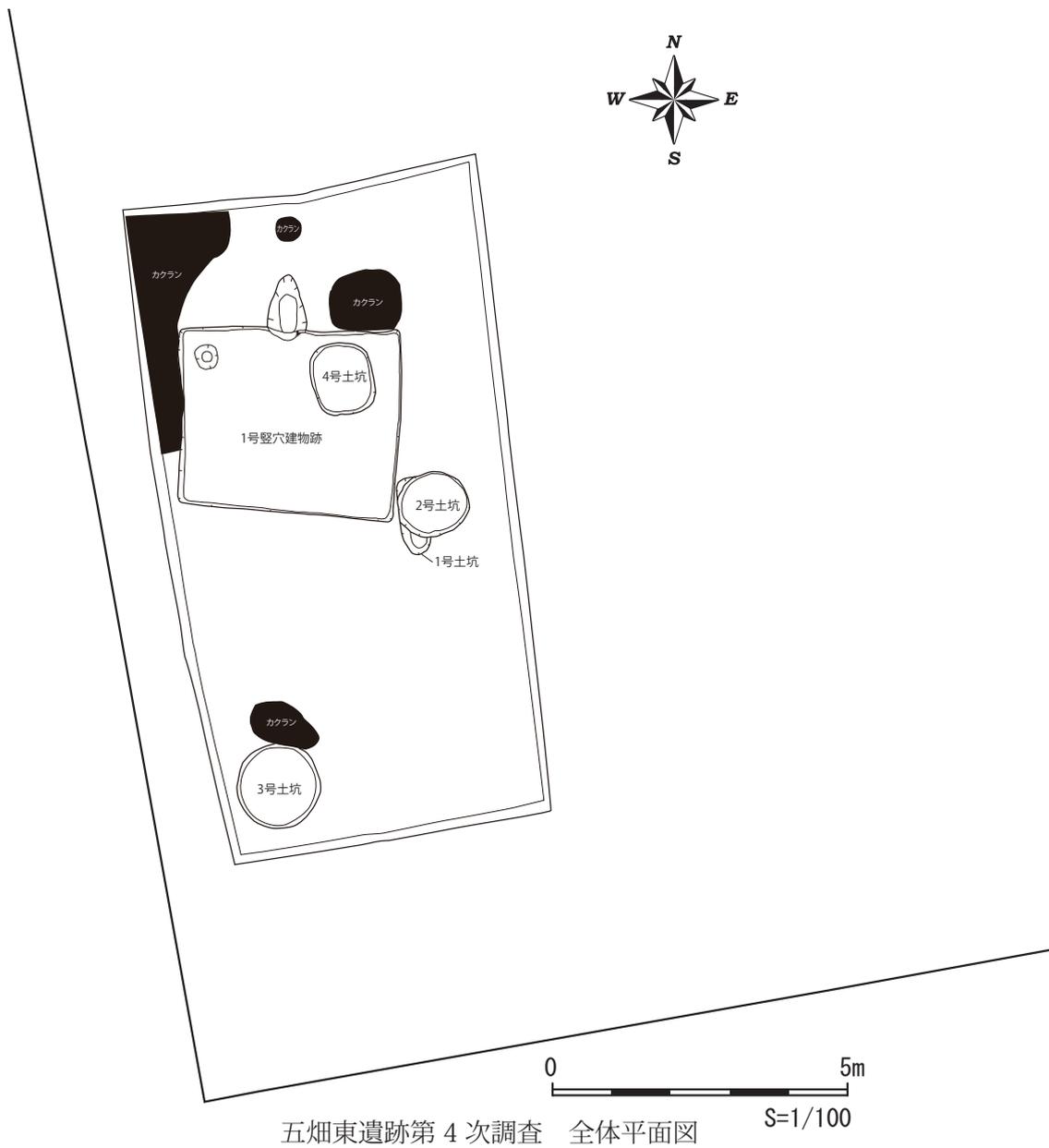


3号土坑 完掘状況（北から）





調査区完掘状況（北から）



五畑東遺跡第4次調査 全体平面図

S=1/100

# 11 伝統的建造物群保存地区保存整備事業

蔵造りと時の鐘に代表される町並みは川越のシンボルゾーンであり、かけがえのない文化遺産である。蔵造り町家以外にも各時代を代表する多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

## 11－1 伝統的建造物群保存地区制度

「伝統的建造物群保存地区制度」とは、失われゆく歴史的な町並みを大切に後世に伝えていくための文化財制度で、昭和 50 年の文化財保護法の改正により創設されたものである。

「伝統的建造物群」とは、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いものをいい、またこれと一体をなして価値を形成している環境を保存するための地区を「伝統的建造物群保存地区」という。

伝統的建造物群保存地区で我が国にとって価値が特に高いものは、「重要伝統的建造物群保存地区」として文部科学大臣に選定される。



## 11－2 地区概要

1. 種 別 重要伝統的建造物群保存地区
2. 名 称 川越市川越伝統的建造物群保存地区
3. 所 在 地 幸町の全部、元町 1 丁目、元町 2 丁目及び仲町の各一部
4. 面 積 約 7.8ha
5. 条例制定年月日 平成 10 年 6 月 23 日（条例第 19 号）
6. 都市計画決定年月日 平成 11 年 4 月 9 日
7. 保存計画決定年月日 平成 11 年 4 月 9 日
8. 選 定 年 月 日 平成 11 年 12 月 1 日  
(文部省告示第 197 号)
9. 選 定 理 由 重要伝統的建造物群保存地区選定基準「(1) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」による。



■川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

### 11－3 地区の特性

川越の伝統的な町並みは、間口が狭く奥行きが長い敷地割のため、表は軒を連ねながらも奥には中庭を取り、採光や通風に対する工夫がみられるなど、商業地としての賑わいの演出と快適な住環境を両立させる知恵が活かされている。伝統的建造物群の基調をなす「蔵造り町家」は、明治26年の大火を契機として生まれたものである。まちの復興にあたり川越商人は、舟運により交流のあった江戸に多く建てられていた防火建築の土蔵造りを採用したと言われている。

町並みを構成する建造物としては、蔵造り町家群が最も特徴的であるが、真壁造り町家、大正昭和初期の洋風町家も分布する。また、町家以外の伝統的建造物には和風住宅、洋風住宅、並びに埼玉りそな銀行川越支店（旧第八十五銀行本店本館）等の近代洋風建築、寺社、時の鐘等の多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

### 11－4 平成30年度の主な事業の概要

#### (1) 保存事業

伝統的建造物の修理2件、応急修理5件、景観事業1件、合計8件の保存事業に補助金を交付した。

#### (2) 保存対策関連調査等

中島家住宅主屋保存対策調査を実施した。

#### (3) 保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に補助金を交付した。

### 11－5 現状変更行為件数

建築物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	1	0	0	0	2	14	3	0	3	23
工作物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	6	0	0	0	3	0	0	0	0	9
土地の形質の変更										0
木竹の伐採										2
土石の類の採取										0
その他（看板設置・修繕等）										25
合 計										59

(一つの申請で複数の行為内容を申請している場合があるため、許可件数としては50件。)

## 11 - 6 保存事業

### (1) 保存事業補助金交付額

伝統的建造物の修理2件、応急修理5件、景観事業1件、合計8件の保存事業に、補助金合計25,856,000円を交付した。

### (2) 保存事業の内容

事業種別	対象物件	事業内容
修 理	① 長谷川家住宅土蔵	瓦屋根の施工、外壁の下地施工、下塗り等。(3ヵ年継続事業の2年目)
	② 勝冶家住宅主屋	屋根下地の修繕、瓦屋根の葺き替え、外壁等の修繕、軸組補強等。(2ヵ年継続事業の1年目)
応急修理	③ 山屋奥の間軸組	下り壁や柱、小屋丸太梁の軸組補強。漆喰壁の一部修理。
	④ 松崎家住宅主屋ショウウインドウ	ショウウインドウの屋根の応急処置、額縁部分の修繕。
	⑤ 小林家住宅住居棟	南側外部軒先の応急処置、玄関庇の補強工事等。
	⑥ 滝島家住宅住居棟板塀	南側外壁及び板塀の修理等。
	⑦ 岡家住宅店蔵雨樋	損傷した雨樋の修理。
景 観	⑧ 岡家住宅裏門及び板塀	歴史的風致と調和した、門及び板塀の新築。

修理事業

①長谷川家住宅土蔵



修 理 前



第1期工事完了後



第2期工事完了後

②勝冶家住宅主屋



修 理 前



修 理 後

景観事業

⑧岡家住宅裏門及び板塀



事 業 前



事 業 後

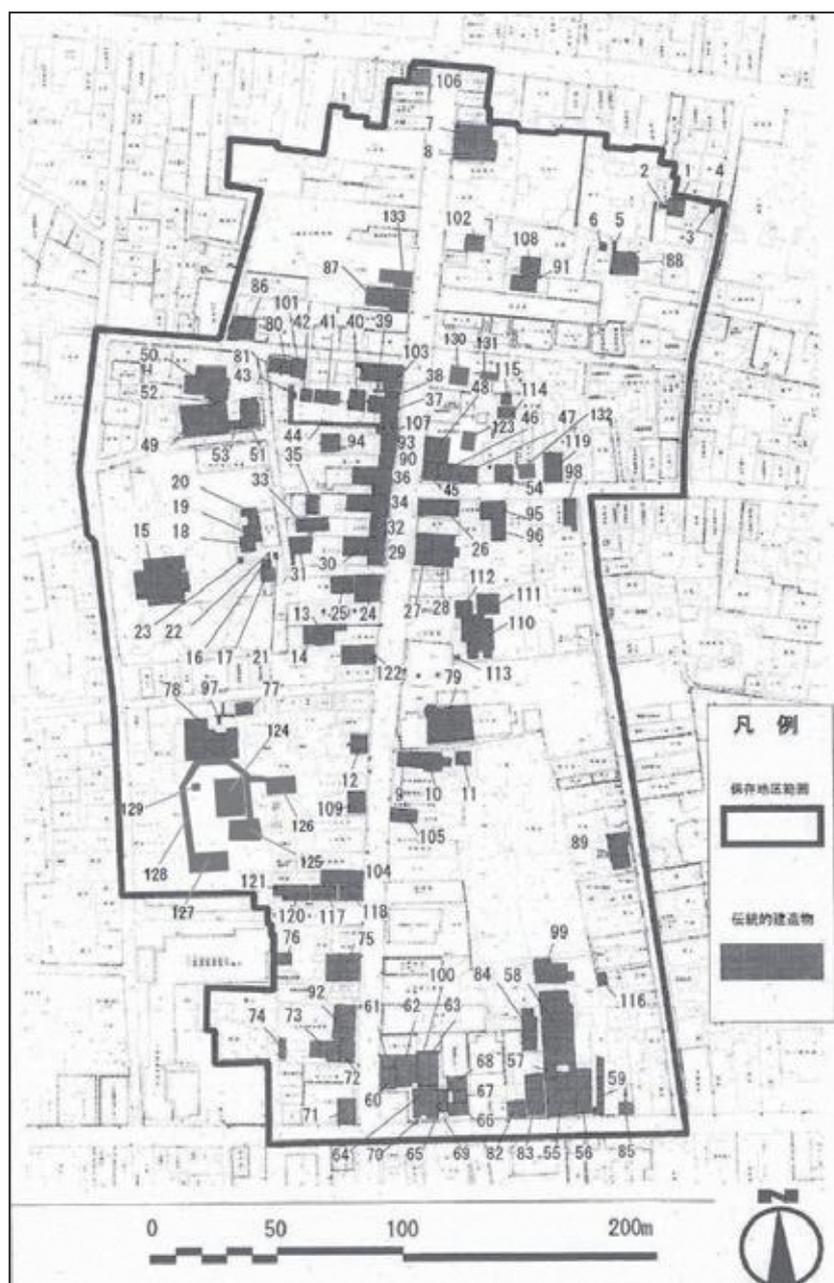
## 11-7 保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に対して、150,000 円の補助金を交付した。

## 11-8 伝統的建造物の特定状況

平成 30 年度の追加特定はなし。

伝統的建造物の分布（平成 29 年 12 月 16 日変更告示による）



## 11－9 蔵造り資料館耐震化事業

蔵造り資料館は、明治26年（1893）の川越大火の直後に煙草商小山文蔵氏により再建された店蔵を中心に、店蔵に隣接した土蔵造りの添屋、背後に木造の住居棟のほか3棟の土蔵、外便所等により構成されている。

過去に、住居棟の半解体修理、二番蔵の構造補強をはじめ、外壁の修繕等が行われているが、経年による外壁等の劣化、雨水の流入による軸部の腐蝕、建物の不同沈下が進行している。

そのため、伝統的建造物の維持管理、また公開活用に資する建造物等の安全性の観点から、文化庁の「国宝文化財等保存・活用事業費補助金」を活用し、耐震化事業を実施中である。

### 平成30年度 耐震化工事（第1期）の実施

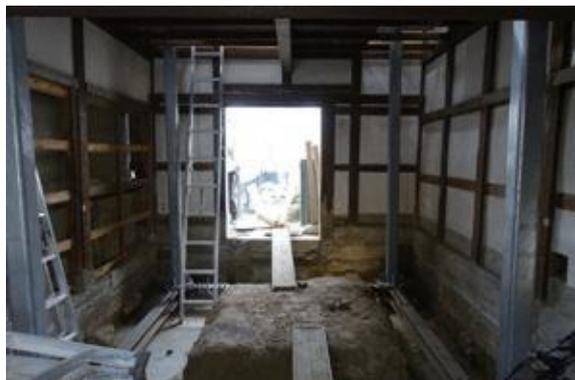
平成26年度の耐震診断調査、平成27年度の耐震化工事実施設計を受け、平成29年度より店蔵・添屋・住居棟・一番蔵の耐震化工事を開始した。平成30年度は店蔵・添屋の屋根解体、柱や桁の補修等を行ったが、工事請負業者が裁判所から民事再生手続廃止決定を受けたことに伴い工事請負契約解除に至り、平成30年10月から工事を中断している。



蔵造り資料館外観



店蔵 屋根解体状況



添屋 鉄骨建方



住居棟 床解体状況



一番蔵 仮設

## 12 普及・啓発事業

### 12-1 職員の派遣

平成30年度は20件の依頼を受けて職員を派遣した。

	実施日	講義内容	講義場所	依頼元	対象	派遣職員
1	4月21日	三芳野神社の歴史と社宝	博物館	三芳野神社氏子会	80名	井口
2	5月15日	川越氷川神社の歴史	博物館	川越氷川神社	10名	井口
3	6月5日	日本遺産について	川越プリンスホテル	川越ロータリークラブ	65名	天ヶ嶋
4	6月9日	歴史資料から読む川越の歴史	高階公民館	青少年を育てる高階地区協議会	100名	天ヶ嶋
5	6月25日	山王塚古墳と庚申信仰	大東東小学校	大東東小学校	112名	藤田 石田
6	7月18日	川越祭りについて	ウエスタ川越	いきがい大学川越校	141名	石田
7	7月26日	小江戸の起こりと川越唐棧	博物館	文化芸術振興課	50名	石田
8	9月29日	埼玉の祭りを知る(川越氷川祭礼の山車行事)	桶川市立西口図書館	桶川市立図書館	20名	石田
9	10月11日	川越藩の参勤交代と高階	高階公民館	高階公民館	140名	鹿倉
10	10月25日	河越やぶさめについて	上戸小学校	上戸小学校	89名	勝田 藤田 門脇
11	10月26日	軸などの資料の取り扱いについて	中央図書館	中央図書館	10名	井口
12	12月4日	川越の歴史—安比奈線を中心に—	大東公民館	大東公民館	30名	天ヶ嶋
13	12月11日	川越まつりの歴史を知る	川越小学校	川越小学校	20名	石田
14	2月1日	山王塚古墳について	大東公民館	大東公民館	50名	藤田
15	2月7日	河越やぶさめについて	上戸小学校	上戸小学校	17名	勝田 門脇
16	2月8日	山王塚古墳の現地見学	山王塚古墳	大東公民館	50名	藤田
17	2月12日	太田道灌と河越	北公民館	北公民館	70名	井口
18	2月21日	川越まつりの歴史劇の指導	川越小学校	川越小学校	90名	石田
19	3月7日	戦国時代の河越	北公民館	北公民館	70名	井口
20	3月24日	江戸文化が息づく三熊野神社祭礼ねり行事	大須賀中央公民館	掛川市祭典総代会	120名	田中



## 12 - 2 刊行物

パンフレット及び書籍を発行し、文化財の保護普及の一助としている。

### パンフレット

川越建物細見	川越城中ノ門堀跡
川越市指定文化財 時の鐘	市指定文化財 永島家住宅（旧武家屋敷）
国指定史跡 河越館跡	川越の祭りと芸能
国指定史跡河越館跡史跡公園	ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財
市指定文化財 旧山崎家別邸	川越氷川祭の山車行事（日本語及び9か国語版）

### 書籍・地図（有償頒布）

川越市の文化財	川越氷川祭りの山車行事報告書
ハンドブック川越の歴史	川越の民俗調査報告書第一集 福原・南古谷地区の民俗
川越の伝説	川越の民俗調査報告書第二集 山田地区の民俗
続・川越の伝説	川越の神社建築
川越の人物誌 第1集	川越の寺院建築
川越の人物誌 第2集	川越市指定文化財 旧山崎家別邸調査報告書
川越の人物誌 第3集【女性編】	元町二丁目井上家文書目録
川越市文化財散策マップ	川越市山田地区民具調査報告書 鹿倉家の民具
	時の鐘耐震化工事報告書

## 12－3 防火訓練

1. 日 時 平成 31 年 1 月 24 日（木）午後 1 時 30 分～午後 2 時 20 分
2. 会 場 喜多院・東照宮・日枝神社
3. 主 催 川越市教育委員会・川越地区消防組合  
喜多院・東照宮・日枝神社・川越市文化財保護協会
4. 内 容 通報、消火、重要物件搬出、避難などの総合訓練  
貯水槽、消火器などの点検・整備及び試験運用
5. 動 員 数 参加人員 111 名  
出動車両 10 台（梯子車 2 台、化学車 1 台ほか）  
見学者約 200 名
6. 概 要

昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺金堂壁画が火災によって焼損したことから、昭和 30 年に 1 月 26 日が「文化財防火デー」と定められ、消防庁と共同で貴重な文化財を火災から守るための取り組みを行っている。

本市では、昭和 34 年に喜多院客殿・書院に防災設備が設置されたのを契機に文化財防火訓練が開始され、毎年同時期に開催している。喜多院周辺は、重要文化財建造物 3 件 13 棟を始め、川越市内でも最も多くの文化財が集中している地域である。また、各文化財の防火設備等も整備されており、防火訓練を行なうには最適といえる。

平成 30 年度の訓練では、消防署、消防団及び喜多院、東照宮、日枝神社の自衛消防隊により、多くの見学者が見守る中で熱心に訓練が行われた。



喜多院



喜多院 はしご車放水



東照宮



日枝神社

## 12－4 遺跡発表会 2018

1. 日 時 平成 30 年 6 月 16 日（土） 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
2. 会 場 博物館 視聴覚ホール
3. 対 象 一般
4. 参加人数 49 人
5. 発表遺跡 ①山王塚古墳（第 4 次調査） 藤田 健一  
②時の鐘調査 山田 雄正  
③旧川越織物市場の調査 岡田 賢治
6. 概 要

毎年川越市で実施している発掘調査の成果について、いち早く市民に公開することを目的とする活用事業である。今回は平成 29 年度に実施した発掘調査の内、山王塚古墳第 4 次調査の成果を報告した。また、時の鐘耐震化工事と、旧川越織物市場の解体事業の際に行った地下構造の調査について、考古学的な見地から解説を行った。

また、山王塚古墳の出土遺物を視聴覚ホール外のロビーに展示し、解説を行った。



遺跡発表会会場風景



遺跡発表会遺物展示解説

## 12－5 山王塚古墳発掘調査見学会

1. 日 時 平成30年9月29日(土) 午前10～11時・午後2～3時
2. 会 場 市指定史跡山王塚古墳 大塚1－21 他
3. 対 象 一般
4. 参加人数 102人(午前69人・午後33人)
5. 概 要

平成29年まで行ってきた山王塚古墳の発掘の成果を広く市民に周知するため、現地見学会を行った。

最初にこれまでの調査概要、時代背景等について全体説明を行った後、下方部や墳頂部に文化財保護課職員が立ち、山王塚古墳の見所について解説した。また、出土品、石室の石材等の出土遺物を展示した。



山王塚古墳見学会全体説明



山王塚古墳見学会墳頂部遺構説明

## 13 川越市の文化財数

平成 30 年度は、新規に市指定文化財 1 件を指定した。

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

種別	種類	国指定等	県指定	市指定	合計
有形文化財	建造物	4	9	52	65
	絵画	2	2	1	5
	彫刻		2	12	14
	工芸品	3	5	18	26
	書跡・典籍・古文書	1	7	28	36
	考古資料		1	7	8
	歴史資料		1	6	7
民俗文化財	有形民俗文化財		1	20	21
	無形民俗文化財	1	6	12 (+ 1)	19
記念物	史跡	1	3	32	36
	天然記念物		1	8	9
	旧跡 (県のみ)		4		4
指定文化財 計		12	42	196 (+ 1)	250
重要伝統的建造物群保存地区		1			
登録文化財	有形文化財	12			
	記念物	1			
重要美術品		2			
合計		28	42	196 (+ 1)	266

( ) は対前年比件数

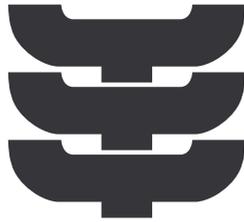
川越市文化財保護年報

平成 30 年度

令和元年 10 月 1 日

発 行 川越市教育委員会文化財保護課  
〒 350 - 8601  
川越市元町 1 丁目 3 番地 1  
TEL 049 - 224 - 6097 (直通)

印 刷 有限会社 川田写植



### 文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(組みもの)のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。